

**令和2年度**

**八潮市**

**まち・ひと・しごと創生総合戦略**



**～令和元年度事業評価～**



# 基本目標 1

産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり





総合戦略 基本目標別総括評価シート(対象:R1年度実施事業)

基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり								
基本目標の趣旨	都心への近接性や交通アクセスのよさを活かした八潮産の農産物や工業製品のブランド化による販路拡大や商店街の活性化等により、市内産業を振興するとともに、就労機会を拡大し、就労人口の増加を図る。									
数値目標										
指標名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
法人市民税納税義務者数 (法人均等割納税義務者数)	人	3,554 (H26年度)	計画	3,642	3,730	3,818	3,906	3,994	4,082	4,170
			実績	3,633	3,676	3,682	3,744	3,796		
八潮市の有効求人倍率 (年度の平均値)		1.50 (H26年度)	計画	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持
			実績	1.49	1.96	2.29	2.40	2.36		
八潮市ふるさとハローワーク相談者の 就職人数（年間）	人	320 (H26年度)	計画	320	320	320	320	360	360	360
			実績	268	277	314	303	241		
就労支援による新規就業者数 (累計)	人	—	計画	—	—	6	9	10	10	10
			実績	—	—	2	2	2		

事業の状況					
事務事業名	活動評価	KPI名	達成度評価	方向性	備 考
1 経営体支援事業	B	中川周辺農地で生産する農地所有適格法人数及び農家数	A	現状のまま継続	
2 地産地消推進事業	B	直売所売上高	B	現状のまま継続	
3 ふれあい農業促進事業	A	体験農園数	A	現状のまま継続	
4 商店街活性化推進事業	B	事業活用数	C	現状のまま継続	
5 中心商業拠点の形成事業	A	八潮駅周辺における商店街組織数	C	見直して継続 (手段を改善)	
6 商業支援事業	A	事業活用数	A	現状のまま継続	
7 工業振興事業	A	認定品数	A	見直して継続 (重点化(拡充))	
8 経営改善支援事業 【先行型事業】	—	市内事業所へのヒアリング	—	終了・完了	平成27年度事業終了
9 経営革新取組企業支援事業	B	承認取得事業所数	A	現状のまま継続	
10 災害時の業務継続計画 策定支援事業	A	業務継続計画策定件数	C	現状のまま継続	
11 企業立地推進事業	B	誘致に向けた情報提供数	A	現状のまま継続	
12 北部拠点まちづくり事業	A	北部地区の進出事業所数	C	現状のまま継続	
13 労働セミナー開催事業	—	セミナー参加者数	—	終了・完了	平成30年度事業終了
14 雇用安定事業	—	ジョブトレーニング参加者数	—	終了・完了	平成30年度事業終了



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	1 経営体支援事業			部	市民活力推進部		課	都市農業課		
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～							
	大施策(節)	1	環境にやさしい魅力ある都市型農業づくり（農業）							
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標						
	基本的方向	1	立地条件を活かした都市型農業の振興	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	①	農業の担い手支援と環境保全型農業の推進	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）		人	3,554（H26年度）	3,994	4,170	
	事業内容		・中川周辺農地における農業経営の安定化を図るため、分散した農地や遊休農地を活用した農地の集約利用を促進するなど、農地集約の仕組みを整えるとともに、法人化等による農業規模の拡大を進める。 ・中川周辺農地において質の高い農産物を生産するため、農地の受け手が、有機栽培を行えるよう支援する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）			1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）		人	320（H26年度）	360	360	
				就労支援による新規就業者数（累計）		人	—	10	10	

事業の実施状況（見込み）		事業費（千円）	事業の評価			
H27	農地利用集積円滑化事業により、集積を申し出た件数4件、農地の出し手となる農業者4人、受け手となる農業者は2人となった。	0	① R1年度の活動の実施状況の評価			
			A:概ねできた(80%以上)	● B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった	
H28	農地利用集積円滑化事業により、集積を申し出た件数2件、農地の出し手及び受け手それぞれ2人となった。 中川農地受け手有機肥料購入補助金として、313,300円支出。中川農地出し手利用円滑化事業補助金として、75,192円を支出した。	389	理由	中川農地受け手有機肥料購入補助金を支出したが、新規の農地集積はなかった。		
			② R1年度のKPI達成度			
H29	農地利用集積円滑化事業により、集積を申し出た件数1件、農地の出し手及び受け手それぞれ1人となった。 中川農地出し手有機肥料購入補助金として、30,720円支出。中川農地受け手利用円滑化事業補助金として、594,532円を支出した。	626	● A:達成した(100%)	B:概ね達成できた(80%以上)	C:達成できなかった(80%未満)	
H30	農地利用集積円滑化事業における新規の農地集積はなかった。中川農地受け手有機肥料購入補助金として、520,937円を支出した。	520	理由	中川周辺農地で生産する農地所有適格法人数及び農家数が平成30年度から1件増加したことから、達成したと判断した。		
H31/R1	農地利用集積円滑化事業により、集積を申し出た件数2件、農地の出し手1人、受け手2人となった。 中川農地出し手有機肥料購入補助金として285,550円支出した。	286	③ 成果向上のための課題と対応策			
R2	農地利用集積円滑化事業により、農地の集積化を図る。 農地の受け手に対して、有機肥料購入費の一部を補助する。 農地の出し手に対して、利用円滑化事業補助金を交付する。	600	課題	農業者の高齢化・担い手不足により、出し手となる農業者が多くなる。一方、意欲的に経営規模を拡大する受け手となる農業者は少ないため、出し手と受け手をマッチングさせ、事業を推進することが困難となる恐れがある。		
			対応	農業委員会や農業ニュースやしおを通じて、制度の内容や農地利用集積円滑化事業のメリットについて周知を図る。さいかつ農業協同組合や農業団体と連携を図りながら情報収集をするなど事業の推進を図る。		
R3	農地利用集積円滑化事業により、農地の集積化を図る。 農地の受け手に対して、有機肥料購入費の一部を補助する。 農地の出し手に対して、利用円滑化事業補助金を交付する。	600	方向性	● :現状のまま継続	:休止・廃止	:終了・完了
				:見直して継続	:他事業と統合して継続	
			↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化
					その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
中川周辺農地で生産する農地所有適格法人数及び農家数	件	2	計画	4	6	8	9	10	11	12
			実績	6	8	9	9	10		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	2 地産地消推進事業			部	市民活力推進部		課	都市農業課		
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～							
	大施策(節)	1	環境にやさしい魅力ある都市型農業づくり（農業）							
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標						
	基本的方向	1	立地条件を活かした都市型農業の振興	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	農産物のブランド化による販路の拡大	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）		人	3,554(H26年度)	3,994	4,170	
	事業内容	・新たな需要の拡大や販路の開拓を促進するため、本市独自の認定制度の創設による八潮の八つの野菜のブランド化や、情報発信によるイメージアップを支援する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）			1.50(H26年度)	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持		
			八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）		人	320(H26年度)	360	360		
就労支援による新規就業者数（累計）			人	—	10	10				

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開した。		0
H28	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開した。さらに、八潮産農産物のイメージアップと消費拡大を図るため、認定農業者及びエコファーマーが使用することができる農業用包装資材 (FG袋) の版下を作成した。80,900枚の発注があった。		73
H29	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開した。さらに、補助団体が作成した「やしお八つの野菜のクリアファイル」と「八潮の野菜直売所」の幟旗を活用し、八潮産農産物のイメージアップと消費拡大を図った。		0
H30	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開した。さらに、補助団体が作成した「直売所マップ」を活用し、八潮産農産物のイメージアップと消費拡大を図った。		0
H31/R1	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開した。さらに、補助団体が作成した「八潮の野菜直売所」の幟旗を活用し、八潮産農産物のイメージアップと消費拡大を図った。		0
R2	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開する。		0
R3	八潮の八つの野菜を各種イベントを通じてPR事業を展開する。		0

事業の評価						
① R 1 年度の活動の実施状況の評価						
	A: 概ねできた(80%以上)	●	B: あまりできなかった(80%未満)	C: 活動できなかった		
理由	農商工連携事業として各種イベントを開催し、小松菜の無料配布など、八潮の八つの野菜のPR事業を展開したが、近隣に大型スーパーが連続して出店した影響もあり、売上げ実績が計画額に達しなかった。					
② R 1 年度のK P I 達成度						
	A: 達成した(100%)	●	B: 概ね達成できた(80%以上)	C: 達成できなかった(80%未満)		
理由	売上実績が、計画額を下回ったが目標値の86.0%を達成した。					
③ 成果向上のための課題と対応策						
課題	八潮産農産物のイメージアップと消費拡大を図るためには、安心・安全・新鮮な野菜を常に提供しなければならない。そのためには、農業者の農業知識及び生産技術の向上を図らなければならない。					
対応	意欲と能力がある農業者の育成「認定農業者」、堆肥による土作りと化学合成肥料・農薬の使用低減に取り組むとともに、農業者の技術向上に努める。また、八潮産農産物のイメージアップを図るため、PR事業を展開する。					
方向性	●	: 現状のまま継続		: 休止・廃止		: 終了・完了
		: 見直して継続		: 他事業と統合して継続		
	↳	重点化(拡充)		手段を改善	効率・簡素化	その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
直売所売上高 (年間)	円	70,000,000	計画	80,000,000	85,000,000	90,000,000	95,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
			実績	84,195,454	90,993,240	86,244,835	83,559,227	86,037,508		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	3 ふれあい農業促進事業			部	市民活力推進部		課	都市農業課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	1	環境にやさしい魅力ある都市型農業づくり (農業)						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	立地条件を活かした都市型農業の振興	指標名		単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)
	具体的な施策	③	農地の保全と有効活用の促進	法人市民税納税義務者数 (法人均等割納税義務者数)		人	3,554 (H26年度)	3,994	4,170
	事業内容	・本市の都市型農業と農産物のPRをより効果的に行うため、遊休農地等を活用した農業体験を促進する。		八潮市の有効求人倍率 (年度の平均値)			1.50 (H26年度)	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数 (年間)		人	320 (H26年度)	360	360
就労支援による新規就業者数 (累計)				人	—	10	10		

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	平成28年度から農業体験事業を実施するための事業費の確保及び実施者である農業者の確保、調整を行った。		0
H28	枝豆・小松菜栽培の親子農業体験を実施した。		100
H29	枝豆栽培の親子農業体験を実施した。		100
H30	枝豆栽培、さつまいも栽培、じゃがいも栽培の親子農業体験を実施した。		300
H31/R1	枝豆栽培、さつまいも栽培、じゃがいも栽培の親子農業体験を実施した。		292
R2	農業体験事業を実施する。		300
R3	農業体験事業を実施する。		300

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
	●	A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった	
理由	事業を実施する農業者を確保すべく協力の依頼を行なった結果、協力者 2 件となり、農業体験の計画件数 3 件に対して実績 3 件であったため。								
② R 1 年度の K P I 達成度									
	●	A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)	
理由	農業体験の計画件数 3 件に対して実績が 3 件であるため。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	農業体験を実施するためには、事業を実施する農業者を確保し、事業への協力（圃場の確保、時期、品種などの調整）を得ることが必要である。								
対応	農業委員会からの情報を基に協力者を確保するとともに、農業団体等に農業体験事業の周知を図り、協力を依頼する。								
方向性	●	:現状のまま継続				:休止・廃止			:終了・完了
		:見直して継続				:他事業と統合して継続			
	↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
体験農園数	園	—	計画	0	3	3	3	3	3	3
			実績	0	1	1	3	3		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	4 商店街活性化推進事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり		数値目標				
	基本的方向	2	魅力ある商業環境の創出		指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	①	商店街の活性化		法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554（H26年度）	3,994	4,170
	事業内容	・商店街の活性化を図るため、市民団体や事業者等による、空き店舗等の活用を支援する。		八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）			1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）		人	320（H26年度）	360	360
				就労支援による新規就業者数（累計）		人	－	10	10

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	モデルケースとして市内1商店会において、NPOを立ち上げ商店会における空き店舗等を活用した、宅配事業、カフェ等の実施に向けた検討が行われた。		0
H28	前年度に引き続き、モデルケースとして市内1商店会における空き店舗等の活用について検討を行ったが、運営組織や予算等の問題から実現には至らなかった。		0
H29	商店会の活性化を図るため、セミナー等に参加し、空き店舗の活用を含めた先進自治体の事例について調査研究を行った。		0
H30	空き店舗対策を含め、商店会の課題解決に向けた専門的な相談やアドバイスを実施する、「アドバイザー派遣事業」について情報提供を行ったが、実施には至らなかった。		0
H31/R1	埼玉県等で開催されるセミナー等に参加し、空き店舗の活用を含めた先進自治体の事例について調査研究を行った。		0
R2	引き続き、埼玉県等で開催されるセミナー等に参加し、空き店舗の活用を含めた先進自治体の事例について調査研究を行う。		0
R3	引き続き、埼玉県等で開催されるセミナー等に参加し、空き店舗の活用を含めた先進自治体の事例について調査研究を行う。		0

事業の評価											
① R 1 年度の活動の実施状況の評価											
		A:概ねできた(80%以上)		● B:あまりできなかった(80%未満)				C:活動できなかった			
理由		インバウンドや観光といった新たな需要を効果的に取り込む形で商店街の活性化を図った取り組みや、空き店舗を活用した商店街の取り組みなどを題材としたセミナーに参加し調査研究を行ったが、アドバイザー派遣事業を受けるまでの機運の醸成には至らなかった。									
② R 1 年度の K P I 達成度											
		A:達成した(100%)				B:概ね達成できた(80%以上)		● C:達成できなかった(80%未満)			
理由		空き店舗対策を含めた商店会の課題を抽出するための「アドバイザー派遣事業」等の実施には至らなかった。									
③ 成果向上のための課題と対応策											
課題		市内商店会は、イベントや売り出しの開催時においては、一定の集客がある賑わいを見せるものの、依然として厳しい状況である。									
対応		商店会が活性化するためには、各個店が元気になることが重要であることから、各個店へ専門家派遣やセミナーを開催し、魅力創出へ繋げる。									
方向性		● :現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
				:見直して継続				:他事業と統合して継続			
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
事業活用数(累計)	件	—	計画	—	—	—	1	2	2	2
			実績	0	0	0	0	0		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	5 中心商業拠点の形成事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり		数値目標				
	基本的方向	2	魅力ある商業環境の創出		指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	②	中心商業拠点の形成		法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554(H26年度)	3,994	4,170
	事業内容	・中心商業拠点を形成するため、八潮駅周辺事業者の組織化を推進し、市内商店街との連携を図り、市内全域の商業活性化を支援する。		八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）			1.50(H26年度)	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）		人	320(H26年度)	360	360
就労支援による新規就業者数（累計）				人	—	10	10		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	中心商業拠点を形成するため、八潮駅周辺の事業者の組織化に向けた検討を行った。		0
H28	中心商業拠点を形成するため、八潮駅周辺の事業者の組織化に向け、調査内容の検討を行った。		0
H29	平成30年度に、八潮駅周辺の事業者の組織化等に向けた調査を行うため、「八潮駅周辺商業集積状況調査」を実施し、調査対象の把握を行った。		0
H30	前年度実施した「八潮駅周辺商業集積状況調査」により把握できた事業者を対象とした、「八潮駅周辺商業者意向等調査」を実施し、駅周辺事業者の意向等を把握をすることができた。		2,493
H31/R1	前年度実施した「八潮駅周辺商業者意向等調査」により商店会活動に対して前向きな回答があった事業者を対象に、専門家による八潮駅周辺の商業魅力UPセミナーを開催して組織化に向けた意識の醸成を支援した。		330
R2	前年度実施した「八潮駅周辺商業魅力UPセミナー」に参加した事業所を中心に、さらに駅周辺の魅力と活気ある商業拠点の形成に向けて前向きな事業所に対して専門家を派遣し、組織化に向けたさらなる意識醸成の支援を行う。		1,573
R3	前年度に、専門家を派遣した駅周辺の事業者に対して、組織化に向けた必要な支援を行う。		0

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
● A: 概ねできた(80%以上)		B: あまりできなかった(80%未満)		C: 活動できなかった					
理由	八潮駅周辺を中心とする地域において魅力ある商業拠点の形成を推進するため、八潮駅周辺魅力UPセミナーを実施し、組織化等に対する意向を確認することができた。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
A: 達成した(100%)		B: 概ね達成できた(80%以上)		● C: 達成できなかった(80%未満)					
理由	組織化に向けた意識の醸成を支援することができたが、商店街の組織化には至らなかった。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	八潮駅周辺の事業者の組織化に対する意識の醸成が途上である。								
対応	八潮駅周辺商業者意向等調査において組織化に対して前向きな回答があった事業者に対してセミナー等に参加した事業者を中心に専門家を派遣し商店街活動や組織化に向けた意識の向上を図る。								
方向性		: 現状のまま継続			: 休止・廃止			: 終了・完了	
	●	: 見直して継続			: 他事業と統合して継続				
	↳	重点化(拡充)		■	手段を改善		効率・簡素化		その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
八潮駅周辺における商店街組織数 (累計)	件	—	計画	—	—	—	—	1	1	1
			実績	0	0	0	0	0		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	6 商業支援事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり		数値目標				
	基本的方向	2	魅力ある商業環境の創出		指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	③	個店の活性化		法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554(H26年度)	3,994	4,170
	事業内容		・市内商店の継続的な経営を支援するため、専門家による経営改善に向けた指導や事業継続に関する相談等を実施する。 ・市内の商業支援や後継者確保のため、交歓・交流イベントの開催等を支援する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）			1.50(H26年度)	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）		人	320(H26年度)	360	360
				就労支援による新規就業者数（累計）		人	—	10	10

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	市内商店の活性化のために、専門家による一店逸品運動参加店舗の経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行った。		100
H28	市内商店の活性化のために、専門家による一店逸品運動参加店舗の経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行った。		100
H29	市内商店の活性化のために、店舗診断を希望する店舗を対象に専門家による経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行った。		100
H30	市内商店の活性化のために、店舗診断を希望する店舗を対象に専門家による経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行った。		100
H31/R1	市内商店の活性化のために、店舗診断を希望する店舗を対象に専門家による経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行った。		100
R2	市内商店の活性化のために、店舗診断を希望する店舗を対象に専門家による経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行う。市内商店の後継者確保のためのセミナーを実施する。		243
R3	市内商店の活性化のために、店舗診断を希望する店舗を対象に専門家による経営診断 (店舗診断) を、3店舗に対して行う。市内商店の売上UPに繋がるホームページの作成方法等に関するセミナーを実施する。		200

事業の評価												
① R 1 年度の活動の実施状況の評価												
●		A: 概ねできた(80%以上)		B: あまりできなかった(80%未満)		C: 活動できなかった						
理由		市内商店の活性化のために店舗診断を希望する店舗に対して経営診断（店舗診断）を行った。										
② R 1 年度のK P I 達成度												
●		A: 達成した(100%)		B: 概ね達成できた(80%以上)		C: 達成できなかった(80%未満)						
理由		令和元年度は3店舗に対して経営診断（店舗診断）を行ったため、KPIとして設定した事業活用数を達成できた。										
③ 成果向上のための課題と対応策												
課題		市内商業者の後継者確保のために必要な支援策について検討を進め、具体的な取り組みにつなげる必要がある。										
対応		市内商業者の後継者確保のためのセミナーを実施する。										
方向性		●	: 現状のまま継続			: 休止・廃止			: 終了・完了			
			: 見直して継続			: 他事業と統合して継続						
		↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化		

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
事業活用数 (累計)	件	—	計画	2	4	6	8	10	16	18
			実績	3	6	9	12	15		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	7 工業振興事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	3	高い技術に裏づけされた八潮ブランドの確立による工業の振興	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	①	工業製品のブランド化による販路の拡大	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554（H26年度）	3,994	4,170	
	事業内容		・新たな販路を開拓し、受注機会の拡大を図るため、展示会・見本市などへ事業所の製品等を出展する際の支援を充実させる。 ・販路拡大や需給のマッチングに向け、市内の優れたブランド製品を冊子にまとめるとともに、情報発信しセールスするなど、市が積極的に支援する。 ・工業製品の八潮ブランドを確立するため、専門家による審査を実施し、質の高い製品の認定を行う。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）		1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）	人	320（H26年度）	360	360	
			就労支援による新規就業者数（累計）	人	—	10	10		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	市内の中小企業者が新たな販路を開拓し、受注機会の拡大を図るため、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を4事業所に対して行った。 また、八潮ブランドの確立に向けて、先進自治体の事例研究を行った。		310
H28	八潮市内で製造・生産された優れた工業製品2製品を「八潮ブランド～世界に誇るまちの逸品～」として認定した。 また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行った。		381
H29	八潮市内で製造・生産された優れた工業製品、工芸品及び加工品4製品を「八潮ブランド」として認定し、認定品のPRを行った。 また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行った。		508
H30	八潮市内で製造・生産・若しくは企画・販売された優れた3製品を「八潮ブランド」として認定するとともに、認定品のPRを行った。 市内製造業者が実施する、ワークショップに対し後援等の必要な支援を行った。また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行った。		475
H31/ R1	八潮市内で製造・生産・若しくは企画・販売された優れた2製品を「八潮ブランド」として認定した。 また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行った。		1,032
R2	八潮市内で製造・生産・若しくは企画・販売された優れた製品を「八潮ブランド」として認定する。 認定品を、パンフレット等により市内外に情報発信を行う。 また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行う。		1,139
R3	八潮市内で製造・生産・若しくは企画・販売された優れた製品を「八潮ブランド」として認定する。 認定品を、パンフレット等により市内外に情報発信を行う。 また、展示会などへ製品等を出展する際の費用の一部の補助を行う。		1,139

事業の評価				
① R 1 年度の活動の実施状況の評価				
	● A:概ねできた(80%以上)	B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった	
理由	八潮ブランド認定事業を実施し、 2 製品を認定した。			
② R 1 年度のK P I 達成度				
	● A:達成した(100%)	B:概ね達成できた(80%以上)	C:達成できなかった(80%未満)	
理由	八潮ブランドとして 2 製品を認定できたため、KPIとして設定した認定品数を達成できた。			
③ 成果向上のための課題と対応策				
課題	八潮ブランド認定品による本市の知名度アップと地域の活性化を図るために、より効果的なPRの方法が必要である。			
対応	八潮ブランド認定ポスターを展示スペースに掲載する他、チラシを市内外の展示会やイベント等において専門分野の方々にPRを行っていく。			
方向性		:現状のまま継続	:休止・廃止	:終了・完了
	●	:見直して継続	:他事業と統合して継続	
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
認定品数 (累計)	品目	—	計画	—	2	3	4	5	12	13
			実績	0	2	6	9	11		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	9 経営革新取組企業支援事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	3	高い技術に裏づけされた八潮ブランドの確立による工業の振興	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	操業支援による活力ある事業所の維持・雇用の創出	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554(H26年度)	3,994	4,170	
	事業内容		・経営の向上を図るため、中小企業新事業活動促進法に基づき、中小企業が行う新技術の活用や異分野連携による新事業開拓などを支援する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）		1.50(H26年度)	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）	人	320(H26年度)	360	360	
				就労支援による新規就業者数（累計）	人	－	10	10	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを3事業所に対して派遣した。		200
H28	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを5事業所に派遣した。		162
H29	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを派遣を予定であったが、平成29年度は派遣希望が無かった。		0
H30	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを1事業所に派遣した。		20
H31/R1	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを1事業所に派遣した。		60
R2	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを派遣する。		200
R3	経営革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営革新アドバイザーを派遣する。		200

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
	A:概ねできた(80%以上)			●	B:あまりできなかった(80%未満)				C:活動できなかった
理由	八潮市商工会と連携し、計画革新計画の承認を目指す事業所を支援するため、経営アドバイザーの派遣を行ったが、希望する事業所が1社のみであった。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
●	A:達成した(100%)				B:概ね達成できた(80%以上)				C:達成できなかった(80%未満)
理由	経営革新計画承認取得事業所数は5件であり、KPIとして設定した承認取得事業所数を上回ったため。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	経営革新計画策定のメリット等、市内事業所へのPRが必要である。								
対応	市内事業者に対する経営革新計画策定のメリット等を含めたPR活動の拡充を図る。								
方向性	●	:現状のまま継続				:休止・廃止			:終了・完了
		:見直して継続				:他事業と統合して継続			
	↳	重点化(拡充)			手段を改善		効率・簡素化		その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
承認取得事業所数 (年間)	件	—	計画	3	3	3	3	3	3	3
			実績	4	8	5	10	5		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	10 災害時の業務継続計画策定支援事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	3	高い技術に裏づけされた八潮ブランドの確立による工業の振興	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	操業支援による活力ある事業所の維持・雇用の創出	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554（H26年度）	3,994	4,170	
	事業内容		・災害が発生した際、事業継承のために複数の戦略や基本的な取組状況を明確にするなど、業務継続計画を立案できるよう支援する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）		1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）	人	320（H26年度）	360	360	
就労支援による新規就業者数（累計）				人	—	10	10		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	平成30年度の業務継続計画策定支援セミナーの実施に向けて、検討を行った。		0
H28	平成30年度の業務継続計画策定支援セミナーの実施に向けて、検討を行った。		0
H29	平成30年度の商工業セミナー (災害時の業務継続計画策定支援) 実施に向けて検討を行った。		0
H30	平成31年度の商工業セミナー (災害時の業務継続計画策定支援) 実施に向けて先進自治体の事例等を情報収集し検討を行った。		0
H31/R1	商工業セミナー (災害時の業務継続計画策定支援) を実施した。		66
R2	前年度に実施した、「実践BCP策定講座」のアンケート結果等を参考に必要な支援について調査研究を行う。		0
R3	引き続き、BCP策定の事業者支援について、先進自治体の事例について、調査研究を行う。		0

事業の評価				
① R 1 年度の活動の実施状況の評価				
理由	● A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった
	B C P (事業継続計画) 策定講座(初級)を開催した。			
② R 1 年度のK P I 達成度				
理由	A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)	● C:達成できなかった(80%未満)
	災害発生時における事業継承に必要な業務継続計画策定の必要性等に関する講座を開催した。計画策定の連絡は届いていないが、各事業所において事業継承に向けた取り組みが開始されているものと推測される。			
③ 成果向上のための課題と対応策				
課題	中小企業においては災害時の業務継続計画の策定が、1割程度と非常に少ない状況である。災害が発生した際に、速やかに事業を再開するため、業務継続計画を事前に策定しておくことの重要性を事業者認識してもらう必要がある。			
対応	業務継続計画の必要性について、広く市内事業者周知するため、市のホームページ等を通じた啓発に努める。新型コロナウイルス感染拡大の第2波に向けた取り組みとしても対応したい。			
方向性	●	:現状のまま継続		:休止・廃止
		:見直して継続		:他事業と統合して継続
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化
				その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
業務継続計画策定件数(年間)	件	—	計画	—	—	—	5	5	5	5
			実績	0	0	0	0	0		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	11 企業立地推進事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課	
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～						
	大施策(節)	2	魅力あふれる商業づくり（商業・サービス業）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	3	高い技術に裏づけされた八潮ブランドの確立による工業の振興	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	操業支援による活力ある事業所の維持・雇用の創出	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554（H26年度）	3,994	4,170	
	事業内容		・工業系用途地域の占める割合が高い本市の特性を活かし、関係機関と連携を図り、空き不動産情報の提供を行うなど、企業誘致を推進する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）		1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）	人	320（H26年度）	360	360	
就労支援による新規就業者数（累計）				人	—	10	10		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行った。		0
H28	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行った。		0
H29	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行った。		0
H30	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行った。		0
H31/ R1	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行った。		0
R2	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行う。		0
R3	埼玉県企業立地課との連携を図り、本市で把握が可能な空き不動産情報の提供を行う。		0

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
	A:概ねできた(80%以上)			●	B:あまりできなかった(80%未満)				C:活動できなかった
理由	新たに市内に立地を希望する企業から空き不動産情報に関する問い合わせがあった場合に、適宜、情報提供を行った。								
② R 1 年度の K P I 達成度									
	● A:達成した(100%)				B:概ね達成できた(80%以上)				C:達成できなかった(80%未満)
理由	不動産空き情報についての問い合わせに対し、KPIとして設定した目標値である年間10件の情報提供を行うことができた。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	空き不動産情報の提供については市単独で実施することは困難であり、埼玉県との連携が必要である。								
対応	埼玉県との連携を一層充実させていく。								
方向性	●	:現状のまま継続				:休止・廃止			:終了・完了
		:見直して継続				:他事業と統合して継続			
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化	その他				

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
誘致に向けた情報提供数(年間)	件	—	計画	10	10	10	10	10	10	10
			実績	12	10	11	10	10		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	12 北部拠点まちづくり事業			部	都市デザイン部		課	都市計画課 他	
総合計画	施策の柱(章)	5	都市基盤・環境～快適でやすらぎと潤いのあるまち～						
	大施策(節)	1	自然と調和した都市空間づくり（土地利用）						
総合戦略	基本目標	1	産業の振興と就労支援によるいきいきと働ける環境づくり	数値目標					
	基本的方向	3	高い技術に裏づけされた八潮ブランドの確立による工業の振興	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	操業支援による活力ある事業所の維持・雇用の創出	法人市民税納税義務者数（法人均等割納税義務者数）	人	3,554（H26年度）	3,994	4,170	
	事業内容		・個別開発による企業立地を促進するため、北部拠点まちづくり推進地区まちづくり計画を策定し、北部拠点の形成を促進する。	八潮市の有効求人倍率（年度の平均値）		1.50（H26年度）	現状値と同程度を維持	現状値と同程度を維持	
				八潮市ふるさとハローワーク相談者の就職人数（年間）	人	320（H26年度）	360	360	
就労支援による新規就業者数（累計）				人	—	10	10		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	北部拠点まちづくり推進地区まちづくり計画 (案) をとりまとめた。		7,112
H28	北部拠点まちづくり推進地区まちづくり計画を7月に決定した。 また、7月に発足した「地権者の会」と連携し、(仮称)外環八潮PAの整備を促進するため、事業者であるネクスコ東日本に対し、要望活動を行った。		2,810
H29	(仮称)外環八潮PAの都市計画決定に向け、埼玉県等の関係機関と協議を行い、概ねの調整が図られた。 また、(仮称)外環八潮スマートIC形状検討業務委託を発注した。		45
H30	(仮称)外環八潮PAの都市計画決定に向けた手続きを進め、平成31年3月に都市計画道路の変更告示が行われた。 また、(仮称)外環八潮スマートIC及び(仮称)入谷東西線の整備に向け、最適案の検証を行った。		8,205
H31/R1	(仮称)外環八潮PAに関しては、ネクスコ東日本が、令和元年8月に埼玉県から都市計画事業認可を受け、事業説明会を開催するとともに、測量作業等に着手した。 (仮称)外環八潮スマートICの形状等について、ネクスコ東日本と調整を進めるとともに、スマートICの整備に向け、関係機関協議の基礎資料となる整備効果等の分析を行った。		9,324
R2	・スマートIC周辺交差点等形状検討を行う。 ・地元マネジメント組織の設立に向けた勉強会を開催するとともに準備会の立上げ準備を行う。		8,869
R3	・スマートIC予備設計を行う。 ・スマートIC準備段階調査等業務を行う。 ・地元マネジメント組織の設立準備会を立上げるとともに、組織の設立及び運営支援を行う。		14,850

事業の評価										
① R 1 年度の活動の実施状況の評価										
	●	A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった		
理由	ネクスコ東日本が埼玉県より都市計画事業認可を受けたことから、地権者を対象とした事業説明会を開催し、測量作業等に着手した。 また、（仮称）外環八潮スマート I C の整備に向け、関係機関との協議等の基礎資料となる整備効果等の分析資料を作成することができたため。									
② R 1 年度の K P I 達成度										
		A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)		●	C:達成できなかった(80%未満)		
理由	（仮称）外環八潮 P A の事業が遅れているため、まちづくり計画に基づく、適切な事業所の立地誘導に向けた活動等を行うことが出来なかったため。									
③ 成果向上のための課題と対応策										
課題	北部拠点の形成については、（仮称）外環八潮 P A 整備の他、関連する道路整備及び道の駅の検討などが関連していくため、計画的に事業を進めていく必要がある。									
対応	（仮称）外環八潮 P A や関連する道路等の早期整備に向け、地権者の会、ネクスコ東日本及び市が連携し課題の解決に取り組む。 また、道の駅の検討に向けては、庁内の関係課による検討組織を設置し、課題等を抽出し対応策の検討を進める必要がある。									
方向性	●	:現状のまま継続				:休止・廃止			:終了・完了	
		:見直して継続				:他事業と統合して継続				
	↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化	
										その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
北部地区の進出事業所数 (累計)	事業所	0	計画	—	—	—	—	1	1	1
			実績	0	0	0	0	0		



# 基本目標2

人や情報の交流による〔住みやすさナンバー1のまち八潮〕の発信





総合戦略 基本目標別総括評価シート(対象:R1年度実施事業)

基本目標	2	人や情報の交流による「住みやすさナンバー１のまち八潮」の発信								
基本目標の趣旨	本市ならではの資源を活かしたイベントなどをきっかけに、本市への多くの来訪を促し、市外の人に対して本市の魅力を伝えるとともに、市民に本市の魅力に気づいてもらうことで、訪れたいまち・住みやすいまちとしての本市の認知度の向上とイメージアップを図る。 また、子育てや教育、防災、防犯などの暮らしに関する情報発信の充実や、市民だれもが集い交流できる機会の充実により、市民一人ひとりの住みやすさの向上を図る。									
数値目標										
指標名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
観光資源（「中川やしお水辺の楽校」「中川やしおフラワーパーク」「やしお駅前公園」） 来訪者数（年間）	人	80,000 （平成26年度）	計画	80,000	200,000	213,000	231,000	250,000	250,000	250,000
			実績	187,000	204,000	190,000	209,000	219,500		
八潮市に「住み続けたい」人の割合（20～40代） ※「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」の合算値 （無回答は除いて算出）	%	39.6 （平成25年度）	計画	—	41.8	—	—	45.0	—	—
			実績	—	50.6	—	—	69.9	—	—

事業の状況					
事務事業名	活動評価	KPI名	達成度評価	方向性	備考
1 観光資源開発事業	A	中川やしお水辺の楽校来訪者数	B	見直して継続 （重点化（拡充））	
		中川やしおフラワーパーク来訪者数	B	見直して継続 （重点化（拡充））	
		やしお駅前公園来園者数	B	見直して継続 （重点化（拡充））	
2 広報事業	A	ツイッター、フェイスブックによる 情報発信件数	A	現状のまま継続	
3 コミュニティ施設整備事業	A	交流サロン活用可能箇所数	C	見直して継続 （手段を改善）	
4 広報事業	A	やしお840メール配信サービス利用 登録件数	A	現状のまま継続	



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	1 観光資源開発事業			部	市民活力推進部		課	商工観光課		
総合計画	施策の柱(章)	4	産業経済・観光～地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまち～							
	大施策(節)	4	水と花にふれあう観光づくり（観光）							
総合戦略	基本目標	2	人や情報の交流による【住みやすさナンバー1のまち八潮】の発信		数値目標					
	基本的方向	1	八潮市ならではの資源を活かした来訪者の増加による認知度の向上		指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	①	八潮市ならではの観光資源等を活用した交流機会の提供		観光資源（「中川やしお水辺の楽校」「中川やしおフラワーパーク」「やしお駅前公園」）来訪者数（年間）	人	80,000（H26年度）	250,000	250,000	
	事業内容		・本市へのより多くの来訪を促すため、豊かな水辺環境を活かし、中川やしお水辺の楽校において親子と一緒に楽しめるイベント等の開催を促進する。 ・本市へのより多くの来訪を促すため、自然豊かな河川敷を活用し、中川やしおフラワーパークにおいて花桃をはじめ、四季折々の美しい景観が楽しめるイベント等の開催を促進する。 ・本市へのより多くの来訪を促すため、やしお駅前公園の立地性を活かし、多くの集客が見込める多種多様なイベント等の開催を促進する。	八潮市に「住み続けたい」人の割合（20～40代）	%	39.6（H25年度）	45.0	—		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	中川やしお水辺の楽校が開校し、多くのイベントを開催した。 中川やしおフラワーパークにおいて、花桃まつり及び清掃イベントを開催したほか、ラジオ体操の会場としても日々活用された。 やしお駅前公園において、夏まつり夜市を開催した。		7,669
H28	中川やしお水辺の楽校を活用し、多くのイベントを開催した。 中川やしおフラワーパークにおいて、花桃まつり及び清掃イベントを開催したほか、ラジオ体操の会場としても日々活用された。 やしお駅前公園において、夏まつり夜市・ゆるぽかマルシェ (2回)、朝市 (1回) を開催した。		10,168
H29	中川やしお水辺の楽校を活用し、多くのイベントを開催した。 中川やしおフラワーパークにおいて、花桃まつり及び清掃イベントを開催したほか、ラジオ体操の会場としても日々活用された。 やしお駅前公園において、夏まつり夜市、ゆるぽかマルシェ (2回)、朝市 (3回) を開催した。		11,020
H30	中川やしおフラワーパークにおいて、花桃まつりが開催された他、ラジオ体操の会場としても日々活用された。また、水辺の楽校では年間を通じて様々な水に親しむイベントが実施され、花桃まつりと同日に特別イベントも実施された。 やしお駅前公園において、八潮夜市、ゆるぽかマルシェ (1回)、朝市 (2回) を開催した。		15,433
H31/ R1	中川やしおフラワーパークにおいて、花桃まつりが開催された他、ラジオ体操の会場としても日々活用された。また、水辺の楽校では年間を通じて様々な水に親しむイベントが実施されたが、花桃まつりと同日に開催する予定であった特別イベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 やしお駅前公園において、八潮夜市、ゆるぽかマルシェ (1回)、朝市 (2回) を開催した。		16,666
R2	中川やしお水辺の楽校を活用し、多くのイベントを開催する。 中川やしおフラワーパークにおいて、前年度同様のイベント等を開催するほか、新たな集客イベントまたは事業の実施を目指す。 やしお駅前公園において、前年度同様のイベント等を開催するほか、新たな集客イベントの開催を目指す。		21,768
R3	中川やしお水辺の楽校を活用し、多くのイベントを開催する。 中川やしおフラワーパークにおいて、前年度同様のイベント等を開催するほか、新たな集客イベントまたは事業の実施を目指す。 やしお駅前公園において、前年度同様のイベント等を開催するほか、新たな集客イベントの開催を目指す。		21,768

事業の評価				
① R1年度の活動の実施状況の評価				
●	A:概ねできた(80%以上)	B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった	
理由	「中川やしお水辺の楽校」で自然を活かした多くのイベントを開催したほか、「やしお駅前公園」では、公園の敷地を効果的に活用して八潮夜市、八潮朝市の開催を支援するなど、観光資源の開発という面で大きな成果を上げることができた。			
② R1年度のKPI達成度				
	A:達成した(100%)	● B:概ね達成できた(80%以上)	C:達成できなかった(80%未満)	
理由	中川やしお水辺の楽校は施設の浸透もあり日常的な利用者が増えているが、花桃まつりと同時開催の予定であった特別イベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となったことから目標値の達成ができなかった。やしお駅前公園は八潮夜市、八潮朝市、ゆるぽかマルシェの開催や日常的な利用者が増えていることから目標値は達成できた。			
③ 成果向上のための課題と対応策				
課題	中川やしお水辺の楽校、中川やしおフラワーパーク、やしお駅前公園のいずれも屋外にある施設であるため、集客イベントの開催においては、天候により来場者数が大きく変動する。			
対応	一般に、屋外で開催するイベントの場合、天候により来場者数が大きく変動することは避けられないが、多少の降雨であればイベントの開催に支障がないように、会場設営時にテントを設置するなどの対応を行う。また、天候により来場者が少ないことが懸念される場合は、840メールなどを利用し、イベント直前もしくは当日に開催の旨を発信する。			
方向性		:現状のまま継続	:休止・廃止	:終了・完了
	●	:見直して継続	:他事業と統合して継続	
	➡	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
中川やしお水辺の楽校来訪者数 (年間)	人	10,000	計画	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000
			実績	13,000	16,000	20,500	25,000	28,000		
中川やしおフラワーパーク来訪者数 (年間)	人	70,000	計画	70,000	75,000	80,000	90,000	100,000	105,000	110,000
			実績	71,000	77,500	80,500	90,500	90,500		
やしお駅前公園来園者数 (年間)	人	—	計画	—	110,000	113,000	116,000	120,000	122,000	124,000
			実績	103,000	110,500	89,000	93,500	101,000		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	2 広報事業			部	企画財政部			課	秘書広報課		
総合計画	施策の柱(章)	6	新公共経営～協働で経営する自主・自律のまち～								
	大施策(節)	2	市民に開かれたまちづくり（情報共有）								
総合戦略	基本目標	2	人や情報の交流による「住みやすさナンバー1のまち八潮」の発信	数値目標							
	基本的方向	1	八潮市ならではの資源を活かした来訪者の増加による認知度の向上	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）			
	具体的な施策	②	多様なメディアを活用した八潮市の魅力の市外への情報発信	観光資源（「中川やしお水辺の楽校」「中川やしおフラワーパーク」「やしお駅前公園」）来訪者数（年間）	人	80,000（H26年度）	250,000	250,000			
	事業内容		・本市へのより多くの来訪を促すため、ツイッター、フェイスブック、動画配信サイト等を活用し、市内で行われる様々なイベントの宣伝情報や開催風景の動画等を随時、市内外へ発信する。 ・市外の方に本市に関心を持ってもらうため、産業や観光資源など、「八潮市の魅力」を分析し、様々な広報媒体を用いて効果的に発信する。	八潮市に「住み続けたい」人の割合（20～40代）	%	39.6（H25年度）	45.0	—			

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メール配信サービス(ツイッター及びフェイスブックに連動)を活用し、市内で行われる様々なイベントの情報を随時、市内外へ発信した。		14,411
H28	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用し、市内で行われる様々なイベントの情報を随時、市内外へ発信した。八潮市の魅力を広く発信し、市のさらなる魅力の向上とイメージアップを図るため、「八潮市シティセールスプラン」を策定した。		21,879
H29	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用し、市内で行われる様々なイベントの情報を随時、市内外へ発信した。		22,313
H30	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用するとともに、SNSを活用した情報発信を行った。また、市のPR動画を配信した。		23,785
H31/R1	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用するとともに、SNSを活用した情報発信を行った。また、動画配信サイト等を活用し、市内で行われる様々なイベントの情報や開催風景の動画等を市内外へ発信した。		21,072
R2	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用するとともに、SNSを活用した情報発信を強化する。また、動画配信サイト等を活用し、市内で行われる様々なイベントの情報や開催風景の動画等を市内外へ発信する。		22,421
R3	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メールを活用するとともに、SNSを活用した情報発信を強化する。また、動画配信サイト等を活用し、市内で行われる様々なイベントの情報や開催風景の動画等を市内外へ発信する。		31,333

事業の評価												
① R 1 年度の活動の実施状況の評価												
理由	● A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった					
	市ホームページ、広報やしお、やしお840メール配信サービス、SNS、AR動画等を活用し、市内で行われる様々なイベントの情報を随時、市内外へ発信した。											
② R 1 年度のK P I 達成度												
理由	● A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)					
	やしお840メール配信サービスやSNSの活用によるイベントの情報発信件数は、483件であり、計画件数を達成することができた。											
③ 成果向上のための課題と対応策												
課題	メール配信の活用をはじめ、積極的な情報発信について、引き続き職員の強い意識付けが必要である。											
対応	メール配信サービスやSNSの活用について、庁内LANの業務掲示板及びシティセールス推進委員会等で定期的な周知を図る。また、ホームページやメール配信サービスの操作研修を実施し、職員のレベルアップを図る。さらに、情報提供のあり方について、先進自治体の事例や、新たな手法の導入について調査・研究する。											
方向性	●		:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
			:見直して継続				:他事業と統合して継続					
	↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
ツイッター、フェイスブックによる情報発信件数(年間)	件	31	計画	200	200	200	200	200	360	360
			実績	65	129	291	358	483		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	3 コミュニティ施設整備事業			部	市民活力推進部		課	市民協働推進課		
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～							
	大施策(節)	8	ふれあいと連帯感にみちた地域社会づくり（コミュニティ）							
総合戦略	基本目標	2	人や情報の交流による「住みやすさナンバー1のまち八潮」の発信	数値目標						
	基本的方向	2	情報交流機会の充実による市民生活の利便性・快適性の向上	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	①	既存施設を活用した市民の情報交流の場づくり	観光資源（「中川やしお水辺の楽校」「中川やしおフラワーパーク」「やしお駅前公園」）来訪者数（年間）	人	80,000（H26年度）	250,000	250,000		
	事業内容		・小学生、中高生、高齢者など、市民だれもが気軽に交流できるよう、サロンスペースを市内に確保するとともに、利用のためのルールの検討を行う。	八潮市に「住み続けたい」人の割合（20～40代）	%	39.6（H25年度）	45.0	－		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	楽習館2Fに設置している市民活動支援コーナーや交流サロンの利用について広く市民に周知した。埼玉県、企業、市との協働で、介護施設の一部を住民に貸し出せる施設として設定し、市民団体に紹介した。		0
H28	コミュニティセンターの読書談話室スペースの活用について社会教育課と協議した。コミュニティセンターの読書談話室スペースの新たな活用を市内NPOや社会福祉協議会と協議した。		0
H29	コミュニティセンターの読書談話室スペースの活用を検討した。コミュニティセンターの読書談話室スペースの新たな活用を市内NPOや社会福祉協議会と協議した。		0
H30	コミュニティセンターの読書談話室スペースの新たな活用を市内NPOや社会福祉協議会と協議した。企業等の貸し出しスペースや空き家等の活用に関して調査を行った。		0
H31/R1	コミュニティセンターの読書談話室スペースの活用について市内活動団体に周知することについて検討した。市内の公共施設において、活用できるサロンスペースの有無について調査を行った。		0
R2	コミュニティセンターの読書談話室スペースの活用について市内活動団体に周知する。サロンスペース設置の条件等を整理し、設置場所の有無について改めて検討する。		0
R3	コミュニティセンターの読書談話室スペースの活用について市内活動団体に周知する。サロンスペース設置の条件等を整理し、設置場所の有無について改めて検討する。		0

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
		● A: 概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった			
理由	コミュニティセンターの読書談話室スペースの新たな活用について、市内NPOや社会福祉協議会と協議するとともに、市内の公共施設において、活用できるサロンスペースの有無について調査を行った。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
		A: 達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		● C: 達成できなかった(80%未満)			
理由	市内の公共施設において、活用できるサロンスペースの有無について調査を行ったが、活用できるスペースは見当たらなかった。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	・ 新たなサロンスペースの確保 ・ 市民等への周知方法の見直し								
対応	読書談話室スペースの市民等への周知方法について、指定管理者である社会福祉協議会と協議しながら検討する。								
方向性		:現状のまま継続			:休止・廃止			:終了・完了	
	●	:見直して継続			:他事業と統合して継続				
	↳	重点化(拡充)		■	手段を改善		効率・簡素化		その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
交流サロン活用可能箇所数 (累計)	か所	1	計画	3	3	3	5	7	7	7
			実績	1	1	1	1	1		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	4 広報事業			部	企画財政部		課	秘書広報課	
総合計画	施策の柱(章)	6	新公共経営～協働で経営する自主・自律のまち～						
	大施策(節)	2	市民に開かれたまちづくり（情報共有）						
総合戦略	基本目標	2	人や情報の交流による【住みやすさナンバー1のまち八潮】の発信	数値目標					
	基本的方向	2	情報交流機会の充実による市民生活の利便性・快適性の向上	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	②	市の広報媒体を活用した情報交流機会の提供	観光資源（「中川やしお水辺の楽校」「中川やしおフラワーパーク」「やしお駅前公園」）来訪者数（年間）	人	80,000（H26年度）	250,000	250,000	
	事業内容		・市民や市外の人が必要とする情報が簡単に得られるよう、市の情報発信の拠点となるホームページのリニューアルを行う。 ・市民生活に役立つ情報交換を行っている市民団体・NPO等の優良なサイトと連携し、市民の暮らしに関する情報入手の利便性を向上する。 ・市ホームページや「広報やしお」「やしお840メール配信サービス」等においてテーマ性のある情報を配信するなど、市民の満足度の高い情報発信のあり方を研究する。	八潮市に「住み続けたい」人の割合（20～40代）	%	39.6（H25年度）	45.0	—	

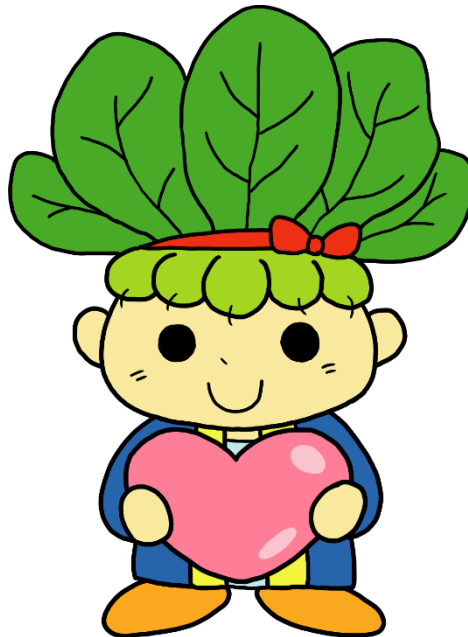
事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	市ホームページのリニューアルに向けて調査・研究を行うとともに、仕様書等を作成した。 また、市ホームページ、広報やしお及びやしお840メール配信サービス等において、積極的に情報発信を行った。		14,411
H28	11月1日に、市ホームページのリニューアルを行った。 また、市ホームページ、広報やしお及びやしお840メール配信サービス等において、積極的に情報発信を行った。		21,879
H29	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メール配信サービス等において、積極的に情報発信を行った。		22,313
H30	関係機関の優良なサイトとの連携について調査・研究した。また、市ホームページ及び広報やしお並びにやしお840メール等において効果的な情報発信を行うとともに、市民の満足度の高い情報発信のあり方を研究した。		23,785
H31/ R1	関係機関の優良なサイトとの連携について調査・研究した。また、市ホームページ及び広報やしお並びにやしお840メール等において効果的な情報発信を行うとともに、市民の満足度の高い情報発信を行った。		21,072
R2	関係機関の優良なサイトとの連携について調査・研究を行う。また、市ホームページ及び広報やしお並びにやしお840メール等において効果的な情報発信を行うとともに、市民の満足度の高い情報発信を行う。さらに、市ホームページのリニューアルに向けて調査・研究を行う。		22,421
R3	関係機関の優良なサイトとの連携について調査・研究を行う。また、市ホームページ及び広報やしお並びにやしお840メール等において効果的な情報発信を行うとともに、市民の満足度の高い情報発信を行う。さらに、市ホームページのリニューアルを行う。		31,333

事業の評価						
① R 1 年度の活動の実施状況の評価						
●	A:概ねできた(80%以上)	■	B:あまりできなかった(80%未満)	□	C:活動できなかった	
理由	市ホームページ、広報やしお及びやしお840メール配信サービス等において、積極的に情報発信を行った。					
② R 1 年度の K P I 達成度						
●	A:達成した(100%)	■	B:概ね達成できた(80%以上)	□	C:達成できなかった(80%未満)	
理由	広報やしおに、やしお840メール配信サービスの2次元コードを掲載し、当該サービスへの登録について周知した。また庁内において、メール配信を積極的に活用するよう呼びかけを行った。					
③ 成果向上のための課題と対応策						
課題	市民にとって有益な情報を豊富かつタイムリーに提供することが必要である。					
対応	先進自治体の事例を参考にするなどして、関係団体等の優良なサイトを効率的に活用する。					
方向性	●	:現状のまま継続	■	:休止・廃止	□	:終了・完了
	■	:見直して継続	□	:他事業と統合して継続		
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化	その他	

KPI名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
やしお840メール配信サービス利用登録件数	件	1,500	計画	1,500	2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	3,000
			実績	1,896	2,179	2,400	2,704	3,315		

# 基本目標3

保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり





総合戦略 基本目標別総括評価シート(対象:R1年度実施事業)

基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり								
基本目標の趣旨	子どもの保育や教育等に関する環境の充実を図るとともに、親子で出かけられる機会や場所を充実させることで、親が自分の時間等も大切にしながら楽しく子育てできる、親と子がともに安心して暮らせる環境をつくる。									
数値目標										
指標名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
「子育て環境」の満足度 (20～40代) ※「満足」「やや満足」の 合算値（無回答は除いて算出）	%	8.0 (H25年度)	計画	—	11.2	—	—	16.0	—	—
			実績	—	9.3	—	—	16.3	—	—
「学校教育の質」の満足度 (20～40代) ※「満足」「やや満足」の合算値 (無回答は除いて算出)	%	6.2 (H25年度)	計画	—	8.7	—	—	12.4	—	—
			実績	—	11.5	—	—	14.4	—	—

事業の状況					
事務事業名	活動評価	KPI名	達成度評価	方向性	備考
1 地域子育て支援拠点事業	A	子育てひろば利用者数	A	見直して継続 (手段を改善)	
2 利用者支援事業	A	子育てコーディネーター相談件数	A	現状のまま継続	
3 ホームスタート事業	A	ホームスタート利用者数	A	現状のまま継続	
4 子育て環境改善事業 【先行型事業】	A	補助対象世帯数	A	現状のまま継続	
5 放課後児童健全育成施設 整備事業	A	学童保育所利用者数	A	現状のまま継続	
6 学童保育所管理運営事業	A	学童保育所利用者数	A	見直して継続 (重点化(拡充))	
7 事業所内保育事業	A	待機児童数	A	現状のまま継続	
8 小規模保育事業	A	待機児童数	A	現状のまま継続	
9 子育て環境改善事業 【先行型事業】	A	地域子育て支援拠点利用者数	A	現状のまま継続	
10 教育指導推進事業	A	全国学力学習状況調査平均正答率	C	見直して継続 (手段を改善)	
11 小中一貫教育推進事業	A	全国学力学習状況調査平均正答率	C	現状のまま継続	
12 地域人材活用推進事業	A	土曜勉強会参加者数	A	見直して継続 (手段を改善)	
13 教育指導推進事業	A	八潮こども夢大学参加者数	A	現状のまま継続	
14 家庭教育推進事業	A	いのちの授業(誕生学)実施回数	A	現状のまま継続	



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	1 地域子育て支援拠点事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり (児童福祉・ひとり親家庭福祉)						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)	
	具体的な施策	①	交流の場づくりによる子育てへの不安の解消	「子育て環境」の満足度 (20～40代)	%	8.0(H25年度)	16.0	－	
	事業内容		・子育て親子の交流等を促進しながら、子育て支援機能の充実を図るため、駅周辺に子育てひろばを整備する。	「学校教育の質」の満足度 (20～40代)	%	6.2(H25年度)	12.4	－	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	市内6か所 (楽習館子育てひろば・駅前出張子育てひろば・やわた子育てひろば・はちじょう子育てひろば・ゆまにて子育てひろば・子育てサロン) で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施した。		11,632
H28	市内6か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施した。子育てサロンの開催日時を拡充していただいばら子育てひろばとして開催した。10月3日からやしお子育てほっとステーション内に駅前子育てひろばを開催した。		24,520
H29	市内6か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施した。八潮駅周辺における需要が多いため、八潮駅周辺において保育所併設型の子育てひろばなどの新規開設について検討した。また、直営のひろばについては、NPO法人などへの委託方式を検討した。		30,541
H30	市内6か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施した。また、平成30年4月1日から八潮駅周辺のみつもり保育園内に「おおぜのり子育てひろば」を新設した。更に、はちじょう・ゆまにて子育てひろばについて、NPO法人へ業務委託した。		37,462
H31/R1	市内7か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施した。また、直営のひろばについては、NPO法人などへの委託方式を検討した。		37,245
R2	市内7か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施する。また、直営のひろばについては、NPO法人などへの委託方式を検討する。さらに、利用者数が増加していることから、ひろばの新設について検討する。		39,963
R3	市内8か所で子育てひろばを開催し、子育て親子の交流の場を提供するとともに子育て情報の提供、相談等を実施する。また、直営のひろばについては、NPO法人などへの委託方式を検討する。		39,963

事業の評価															
① R 1 年度の活動の実施状況の評価															
●		A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった								
理由		市内 7 か所の子育てひろばにおいて、子育て相談（323件）、身体測定（1,875人）、栄養相談（31件）、各種講習会（3,548人）を実施した。													
② R 1 年度の K P I 達成度															
●		A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)								
理由		やしお子育てほっとステーションにおける N P O 法人による民間のノウハウや柔軟な発想などの運営方式により、計画した利用者数を大幅に上回ったため													
③ 成果向上のための課題と対応策															
課題		・直営の子育てひろばについて民間事業者へ委託し、民間の柔軟な発想や運営ノウハウなどから更なるサービスの充実を図る必要がある。 ・開催時間の延長を検討する必要がある。													
対応		・やしお子育て応援ナビを活用した周知を行う。 ・直営のひろばについては、N P O 法人などへの委託方式を検討する。 ・近隣市のひろばの開催状況の調査をする必要がある。													
方向性					:現状のまま継続					:休止・廃止				:終了・完了	
		●			:見直して継続					:他事業と統合して継続					
		↳			重点化(拡充)			■		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
子育てひろば利用者数 (年間)	人	36,000	計画	36,000	48,000	48,000	48,000	48,000	50,000	52,000
			実績	29,676	45,004	54,075	61,658	52,600		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	2 利用者支援事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課		
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～							
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり（児童福祉・ひとり親家庭福祉）							
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標						
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	①	交流の場づくりによる子育てへの不安の解消	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	－		
	事業内容		・子育てに関する情報提供や子育て支援を円滑に利用できるよう、子育てコーディネーターを子育てひろばなどに配置する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	－		

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	八潮駅周辺の地域子育て支援拠点 (子育てひろば) において教育・保育施設や子育て支援の事業等の情報集約と情報提供を行うとともに、保護者からのそれらの利用にあたっての相談に応じ、必要な情報提供等を行う「利用者支援事業」をNPO法人などに業務委託することを検討した。	0
H28	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施した。 ・妊娠・出産・子育てに関する各種行政サービスを、利用者の視点に立ち「分かりやすく」、「探しやすい」メニュー構造のWebサイト及びアプリシステムを民間事業者からの賃貸借による運用を検討した。	3,216
H29	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施した。 ・平成29年7月3日からやしお子育て応援ナビを民間事業者からの賃貸借により運用を開始した。 ・応援サイトに掲載する企業等の広告募集を行い、広告収入により事業費の軽減を図ることを検討した。	7,597
H30	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施した。 ・やしお子育て応援ナビを民間事業者からの賃貸借により運用した。 ・応援サイトに掲載する企業等の広告募集を行った。	7,983
H31/R1	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施した。 ・やしお子育て応援ナビを民間事業者からの賃貸借により運用した。 ・応援サイトに掲載する企業等の広告募集を行った。	8,019
R2	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施する。 ・やしお子育て応援ナビを民間事業者からの賃貸借により運用する。 ・応援サイトに掲載する企業等の広告募集を行い、広告収入により事業費の軽減を図る。	8,055
R3	・「やしお子育てほっとステーション」内において「利用者支援事業」を実施する。 ・やしお子育て応援ナビを民間事業者からの賃貸借により運用する。 ・応援サイトに掲載する企業等の広告募集を行い、広告収入により事業費の軽減を図る。	8,055

事業の評価													
① R 1 年度の活動の実施状況の評価													
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった							
理由		やしお子育てほっとステーションにおいて「利用者支援事業」をNPO法人の業務委託により事業を実施した。また、賃貸借によりやしお子育て応援ナビを運用した。											
② R 1 年度のK P I 達成度													
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)							
理由		やしお子育てほっとステーションにおいて「利用者支援事業」をNPO法人の業務委託により事業を実施し、計画した相談件数を大幅に上回ったため											
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題		事業周知の徹底と関係課との連携が必要である。											
対応		市のホームページ、やしお840メール配信、子育て応援サイト等による周知に加え、乳児家庭全戸訪問などにおいてもチラシを配布するなど、関係課と連携し事業周知を図る。											
方向性		●		:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
				:見直して継続				:他事業と統合して継続					
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
子育てコーディネーター相談件数 (年間)	件	—	計画	—	200	200	200	200	200	200
			実績	0	555	630	387	394		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	3 ホームスタート事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり（児童福祉・ひとり親家庭福祉）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	①	交流の場づくりによる子育てへの不安の解消	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	－	
	事業内容		・親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	－	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮駅周辺の地域子育て支援拠点 (子育てひろば) において親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施する「ホームスタート事業」をNPO法人などに業務委託することを検討した。		0
H28	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施した。		1,911
H29	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施した。		2,049
H30	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施した。		2,049
H31/R1	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施した。		2,067
R2	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施する。		2,086
R3	NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、親の心の安定と子育て意欲の向上を図るため、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施する。		2,086

事業の評価											
① R1年度の活動の実施状況の評価											
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった					
理由		NPO法人との業務委託により「やしお子育てほっとステーション」内にホームスタートの拠点を設置し、在宅子育てをしている家庭などに専門のスタッフによる訪問を実施した。									
② R1年度のKPI達成度											
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)					
理由		訪問した家庭の件数は42件、延べ訪問回数は309回であり、目標達成できたため。									
③ 成果向上のための課題と対応策											
課題		事業周知の徹底と関係課との連携が必要である。									
対応		市のホームページ、やしお840メール配信、子育て応援サイト等による周知に加え、乳児家庭全戸訪問などにおいてもチラシを配布するなど、関係課と連携し事業周知を図る。									
方向性		● :現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
				:見直して継続				:他事業と統合して継続			
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
ホームスタート利用者数 (年間)	人	—	計画	—	30	60	60	60	60	60
			実績	0	16	44	294	309		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	4 子育て環境改善事業【先行型事業】			部	子育て福祉部		課	保育課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり（児童福祉・ひとり親家庭福祉）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	②	親の子育てにおける負担の軽減	「子育て環境」の満足度（20～40代）		%	8.0（H25年度）	16.0	－
	事業内容		・多子世帯における経済的負担の軽減を図るため、保育所等に入所する第3子以降の児童（満3歳未満）の保育料を助成する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）		%	6.2（H25年度）	12.4	－

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 6,668,100円 県補助金: 3,334千円 (補助率1/2) ※県補助金とは別に、国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した。(交付金: 3,170千円)	0
H28	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 11,059千円 県補助金: 5,529千円 (補助率1/2)	0
H29	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 12,486千円 県補助金: 6,243千円 (補助率1/2)	0
H30	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 18,744千円 県補助金: 9,372千円 (補助率1/2)	0
H31/ R1	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 19,827千円 県補助金: 9,913千円 (補助率1/2)	0
R2	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 21,956千円 県補助金: 10,978千円 (補助率1/2)	0
R3	保育所等に入所する第3子以降の満3歳未満の児童の保育料の免除 保育料免除額: 21,956千円 県補助金: 10,978千円 (補助率1/2)	0

事業の評価						
① R 1 年度の活動の実施状況の評価						
	● A:概ねできた(80%以上)		■ B:あまりできなかった(80%未満)		□ C:活動できなかった	
理由	目標値「40人」に対し、実績が「56人」であった為。該当する多子世帯の保育所等利用における経済的負担を軽減することができた。					
② R 1 年度のK P I 達成度						
	● A:達成した(100%)		■ B:概ね達成できた(80%以上)		□ C:達成できなかった(80%未満)	
理由	目標値「40人」に対し、実績が「56人」であった為。該当する多子世帯の保育所等利用における経済的負担を軽減することができた。					
③ 成果向上のための課題と対応策						
課題	多子世帯における子どもの保育料の負担の軽減を図るとともに、保育所等の優先利用について検討する必要がある。					
対応	保育所入所選考基準において、多子世帯における子どもの保育所等の優先利用の規定を設けることで、多子世帯の保育利用の増加や、利用者負担の軽減の拡大につながるものと考えられる。					
方向性	●	:現状のまま継続		:休止・廃止		:終了・完了
		:見直して継続		:他事業と統合して継続		
	↳	重点化(拡充)		手段を改善	効率・簡素化	その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
補助対象世帯数 (年間)	世帯	31	計画	40	40	40	40	40	40	40
			実績	35	56	56	70	56		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	5 放課後児童健全育成施設整備事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり (児童福祉・ひとり親家庭福祉)						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)	
	具体的な施策	②	親の子育てにおける負担の軽減	「子育て環境」の満足度 (20～40代)	%	8.0 (H25年度)	16.0	—	
	事業内容		・子育て支援環境を充実するため、駅周辺に学童保育所を整備し、併せて駅周辺の学童保育所の開所時間を延長する。	「学校教育の質」の満足度 (20～40代)	%	6.2 (H25年度)	12.4	—	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮駅周辺の住宅整備の進捗に伴い、入所児童数が増加しており、学童保育所の待機児童が発生することが想定されることから、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき、駅周辺において入所児童の安全・安心を確保できる送迎サービスなどを行う新たな学童保育の提供が可能な社会福祉法人等の民間活力の導入及び新たな民間学童保育所の整備について検討した。		0
H28	八潮駅周辺に、送迎サービスなどを行う新たな学童保育の提供が可能な社会福祉法人等の民間活力の導入及び学校敷地外に新規の学童保育所(定員60名)の整備を検討した。また、大曽根小学校の児童数増加に伴い、学童保育所として使用していた教室を普通教室に戻す必要があるため、送迎サービスなどを行う新たな学童保育の提供が可能な社会福祉法人等の民間活力の導入及び学校敷地外に新規の学童保育所(定員80名)の整備を検討した。		0
H29	八潮駅周辺における子育て家庭の増加に伴い、NPO法人による民間活力を導入し、新たな民間学童保育所の整備を行った。また、大曽根小学校においては、児童数の増加に伴い普通教室が不足していることから、学校敷地外に社会福祉法人による民間活力を導入して民間学童保育所を整備し、おおよそ学童保育所の移設を行った。		47,100
H30	経年劣化しているひまわり学童保育所について、指定管理者制度を導入した運営方式から補助方式へ移行するため、NPO法人による民間活力を導入した民間学童保育所へと移設した。経年劣化しているどんぐり学童保育所の移設整備の方策を検討した。また、指定管理者制度を導入した運営方式から補助方式への移行も検討した。		0
H31/R1	経年劣化しているどんぐり学童保育所及びひまわり学童保育所の移設整備の方策を検討するとともに、指定管理者制度を導入した運営方式から補助方式への移行についても併せて検討した。また、八潮駅を中心に児童数が増加しており、小学校の普通教室が不足し、空き教室を活用していた学童保育所を学校敷地外に移設することを検討した。さらに、学童保育所の不足への緊急的な対策として、八潮駅周辺において定員30人の学童保育所を整備した。		0
R2	経年劣化しているどんぐり学童保育所及びひまわり学童保育所の移設整備の方策を検討する。また、指定管理者制度を導入した運営方式から補助方式への移行についても併せて検討する。さらに、八潮駅を中心に児童数が増加しており、小学校の普通教室が不足し、空き教室を活用していた学童保育所を学校敷地外に移設することを検討する。		0
R3	経年劣化しているどんぐり学童保育所及びひまわり学童保育所の移設整備の方策を検討する。また、指定管理者制度を導入した運営方式から補助方式への移行についても併せて検討する。さらに、八潮駅を中心に児童数が増加しており、小学校の普通教室が不足し、空き教室を活用していた学童保育所を学校敷地外に移設することを検討する。		0

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
●		A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった	
理由		学童保育所の不足への緊急的な対策として、八潮駅周辺において定員30人の学童保育所を整備した。							
② R 1 年度のK P I 達成度									
●		A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)	
理由		学童保育所利用者数が計画値を上回ったため							
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題		・経年劣化している学童保育所の移設整備の方策を検討する必要がある。 ・八潮駅を中心に児童数が増加しており、小学校の普通教室が不足し、空き教室を活用していた学童保育所を学校敷地外に移設する必要がある。							
対応		・学校敷地内への移設や新設が困難な場合においては、社会福祉法人等により学校敷地外に施設を整備し、入所児童の安全・安心を確保する送迎サービスなどを行う新たな学童保育の提供や補助方式による運営等を検討する。							
方向性		●		:現状のまま継続		:休止・廃止		:終了・完了	
				:見直して継続		:他事業と統合して継続			
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
学童保育所利用者数 (年間)	人	5,300	計画	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,800	5,800
			実績	5,403	5,478	5,517	6,252	6,867		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	6 学童保育所管理運営事業			部	子育て福祉部		課	保育課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり (児童福祉・ひとり親家庭福祉)						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)	
	具体的な施策	②	親の子育てにおける負担の軽減	「子育て環境」の満足度 (20～40代)	%	8.0(H25年度)	16.0	－	
	事業内容		・子育て支援環境を充実するため、駅周辺に学童保育所を整備し、併せて駅周辺の学童保育所の開所時間を延長する。	「学校教育の質」の満足度 (20～40代)	%	6.2(H25年度)	12.4	－	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮駅周辺の学童保育所における保育時間について、現在の午後6時30分までの開所時間の延長についての調査研究を行った。		0
H28	八潮駅周辺の学童保育所における保育時間について、現在の午後6時30分までの開所時間の延長についての調査研究を行った。		0
H29	おおぜ学童保育所の公設民営 (指定管理者制度) での運営を開始し、学童保育所における開所時間を延長した。開所時間: 午後6時30分→午後7時30分に繰り下げ		25,678
H30	おおぜ学童保育所、おおそね学童保育所の代替施設 (けやき学童クラブ)、八潮駅周辺の新規施設 (ちくみキッズクラブ) において、開所時間を延長 (午後6時30分→午後7時30分に繰り下げ) して民設民営学童保育所を運営した。		96,670
H31/R1	公設民営1か所、民設民営2か所に加え、ひまわり学童クラブの代替施設 (こびーアフタースクールやしお) の合計4か所の学童保育所において、開所時間を延長して学童保育所を運営した。		26,110
R2	公設民営1か所、民設民営3か所の合計4か所の学童保育所において開所時間の延長を継続するとともに、八潮駅周辺の新規施設 (こびーアフタースクールやしおST) において、開所時間を延長して学童保育所を運営する。		168,030
R3	公設民営1か所、民設民営4か所の合計5か所の学童保育所において開所時間の延長を継続するとともに、八潮駅周辺の新規施設において、開所時間を延長して学童保育所を運営する。		208,030

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
理由	●	A:概ねできた(80%以上)		■	B:あまりできなかった(80%未満)		□	C:活動できなかった	
	ひまわり学童クラブの代替施設として、民設民営の「こびーアフタースクールやしお」を開 設し、合計4か所の学童保育所において、開所時間を延長して学童保育所を運 営することができたため。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
理由	●	A:達成した(100%)		■	B:概ね達成できた(80%以上)		□	C:達成できなかった(80%未満)	
	八潮駅周辺における保育需要の増加により、学童保育所利用者数が成果指標の 目標を上回ることができたため。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	駅周辺における保育需要の増大に伴い、利用児童が増加や、長時間保育に対す るニーズなど、新たな保育ニーズへの対応が求められている。								
対応	新たな学童保育所の整備や開所時間の延長について、民間活力を導入すること で、保育需要の増大や新たな保育ニーズに柔軟に対応できるものと考えてい る。								
方向性		□:現状のまま継続			□:休止・廃止			□:終了・完了	
	●	:見直して継続			:他事業と統合して継続				
	↳	■重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
学童保育所利用者数 (年間)	人	5,300	計画	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,800	5,800
			実績	5,403	5,478	5,517	6,252	6,867		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	7 事業所内保育事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり (児童福祉・ひとり親家庭福祉)						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり		数値目標				
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実		指標名	単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)
	具体的な施策	②	親の子育てにおける負担の軽減		「子育て環境」の満足度 (20～40代)	%	8.0(H25年度)	16.0	－
	事業内容		・子育て支援環境を充実するため、女性社員が多く働く企業等に働きかけ、事業所内保育（認可外）の整備を促進する。	「学校教育の質」の満足度 (20～40代)	%	6.2(H25年度)	12.4	－	

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の助成制度の周知を検討した。	0	
H28	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知した。	0	
H29	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知した。	0	
H30	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知した。	0	
H31/R1	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知した。	0	
R2	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知する。	0	
R3	事業所(企業)内保育事業の整備促進のため、県で交付している「事業所内保育事業」の整備補助金や内閣府及び公益財団法人児童育成協会で助成している「企業主導型保育事業」の制度について市のホームページやチラシ等で周知する。	0	

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった			
理由	内閣府、埼玉県及び公益財団法人児童育成協会等から情報を収集し、「事業所内保育事業」の整備補助金や「企業主導型保育事業」の助成金について、市のホームページやチラシ等で周知した。								
② R 1 年度の K P I 達成度									
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)			
理由	平成 3 1 年 4 月 1 日時点における待機児童は 0 人だったが、今後も待機児童が発生しないようにするため、企業主導型保育事業等の情報を収集し、事業周知を行った。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	事業周知を徹底する必要がある。								
対応	関係課等と連携し、広く企業に周知をしていく必要がある。								
方向性	●	:現状のまま継続			:休止・廃止			:終了・完了	
		:見直して継続			:他事業と統合して継続				
	↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化

KPI名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
待機児童数	人	33	計画	0	0	0	0	0	0	0
			実績	33	0	16	45	0		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	8 小規模保育事業			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり（児童福祉・ひとり親家庭福祉）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	親の子育てにおける負担の軽減	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	－	
	事業内容		・子育て支援環境を充実するため、駅周辺のマンションの整備に併せて、1階部分に小規模保育施設（認可外）の設置を促進する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	－	

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	新制度における待機児童対策として、新設の小規模保育施設4か所(みひかり保育園:定員13名・しおどめ保育園小規模認可:定員15名・ふえあいい保育園八潮駅南口園:定員15名・ふえあいい保育園八潮中央園:定員14名)を整備した。また、家庭保育室2か所(もりまさ保育園:定員18名・おひさま保育園:定員12名)について保育需要の高い八潮駅周辺に移設し小規模保育施設に移行した。	0
H28	平成27年度の入所児童数や乳幼児の人口、居住環境の変化等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討した。	0
H29	平成28年度の入所児童数や人口動態、居住環境の変化や女性就業率の増加等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討した。	0
H30	平成29年度の入所児童数や人口動態、居住環境の変化や女性就業率の増加等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討し、整備した。	0
H31/R1	平成30年度の入所児童数や人口動態、居住環境の変化や女性就業率の増加等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討し、整備した。	0
R2	令和元年度の入所児童数や人口動態、居住環境の変化や女性就業率の増加等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討する。	0
R3	令和2年度の入所児童数や人口動態、居住環境の変化や女性就業率の増加等を勘案し、八潮市子ども・子育て支援事業計画に基づき小規模保育施設の整備を検討する。	0

事業の評価													
① R 1 年度の活動の実施状況の評価													
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった							
理由		待機児童対策として、小規模保育施設1施設（定員18人）を整備した。											
② R 1 年度のK P I 達成度													
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)							
理由		平成31年4月1日時点における待機児童は0人だったが、今後も待機児童が発生しないようにするため、小規模保育施設1施設を整備し、待機児童対策に努めた。											
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題		連携施設の設定を進める必要がある。											
対応		民間認可保育所の園長会議等において、協力を求めていく必要がある。また、今後、認可保育所等を整備する場合においては、2歳児と3歳児の定員枠に差をつける必要がある。											
方向性		●		:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
				:見直して継続				:他事業と統合して継続					
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
待機児童数	人	33	計画	0	0	0	0	0	0	0
			実績	33	0	16	45	0		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	9 子育て環境改善事業【先行型事業】			部	子育て福祉部		課	子育て支援課	
総合計画	施策の柱(章)	2	健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～						
	大施策(節)	8	全ての子どもの幸せづくり（児童福祉・ひとり親家庭福祉）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	1	子どもの居場所や親子の交流機会の提供による子育て環境の充実	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	③	子どもと一緒に外出しやすい環境の充実	「子育て環境」の満足度（20～40代）		%	8.0（H25年度）	16.0	－
	事業内容		・子育て親子が安全に、安心して外出できる環境を整備するため、地域子育て支援事業等を実施する施設におむつ交換などを設置し、更なる利用者の増加を図る。また、屋外における市民まつりなどで実施されている子育て世帯を対象としたイベント等に「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を貸し出す。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）		%	6.2（H25年度）	12.4	－

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	地域子育て支援拠点の実施施設等6施設に16台のおむつ交換台を設置した。地域子育て支援拠点の実施施設等5施設に22台のベビーチェアを設置した。保健センター他4施設に授乳スペースを確保した。移動式あかちゃんの駅(簡易テント・授乳用椅子・おむつ交換ベッド)を2セット購入し、やしお市民まつりで設置したところ、24組48名の利用があった。ベビーカーマークやチラシ等を作成し、ベビーカーの安全な利用や理解の周知を図った。		6,104
H28	地域子育て支援事業等を実施する施設におむつ交換などを設置し、更なる利用者の増加を図った。また、屋外における市民まつりなどで実施されている子育て世帯を対象としたイベント等に「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を貸し出しを行った。		1,038
H29	地域子育て支援事業等を実施する施設におむつ交換などを設置し、更なる利用者の増加を図った。また、屋外における市民まつりなどで実施されている子育て世帯を対象としたイベント等に「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を貸し出した。既に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため保守点検等の実施を検討した。		1,361
H30	市民まつりにおいて、「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を設置した。また、既に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため保守点検等を実施した。		169
H31/R1	市民まつりにおいて、「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を設置した。また、既に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため保守点検等を実施した。		214
R2	子育て世帯を対象として屋外で実施されている市民まつりのようなイベント等に「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を貸し出しする。また、既に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため保守点検等を実施する。		221
R3	子育て世帯を対象として屋外で実施されている市民まつりのようなイベント等に「移動式あかちゃんの駅」として、簡易テントやおむつ交換ベッド等を貸し出しする。また、既に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため保守点検等を実施する。		221

事業の評価										
① R 1 年度の活動の実施状況の評価										
理由	●	A:概ねできた(80%以上)		■	B:あまりできなかった(80%未満)		□	C:活動できなかった		
	地域子育て支援事業等を実施する施設を含め、市内公共施設に設置したおむつ交換台等の安全な利用を図るため、保守点検を実施した。 また、移動式あかちゃんの駅について、市民まつりにおいて設置し、貸し出しの周知を図った。									
② R 1 年度の K P I 達成度										
理由	●	A:達成した(100%)		■	B:概ね達成できた(80%以上)		□	C:達成できなかった(80%未満)		
	利用者数が計画値を上回ったため。									
③ 成果向上のための課題と対応策										
課題	おむつ交換台や授乳スペース等の設置場所を市民に広く周知する必要がある。									
対応	やしお子育て応援ナビを活用した周知方法について検討する。									
方向性	●	:現状のまま継続			■	:休止・廃止		□	:終了・完了	
	■	:見直して継続			□	:他事業と統合して継続				
	↳	重点化(拡充)	手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
地域子育て支援拠点利用者数(年間)	人	36,000	計画	36,000	48,000	48,000	48,000	48,000	50,000	52,000
			実績	29,676	45,004	54,075	61,658	52,600		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	10 教育指導推進事業		部	学校教育部	課	指導課
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～			
	大施策(節)	2	次代を担う人づくり (幼児教育・学校教育)			
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり		数値目標	
	基本的方向	2	教育の充実による子どもが「生きる力」を身につけられる環境の実現		指標名	単位 現状値 (H27) 目標値 (R1) 目標値 (R3)
	具体的な施策	①	きめ細やかな学習指導による学力の向上		「子育て環境」の満足度 (20～40代)	% 8.0(H25年度) 16.0 —
	事業内容		・児童生徒の一人ひとりの学力を伸ばすため、個々の学力の実態を把握し、その状況に応じた課題に取り組めるよう指導する。		「学校教育の質」の満足度 (20～40代)	% 6.2(H25年度) 12.4 14.5

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	学習塾と連携した学習指導に関する調査研究を行った。	0
H28	市内小学校5年生の児童178人が、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回、1月～3月の土曜日に実施した。1クラスあたり15～20人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は八潮中学校を利用した。	3,249
H29	市内小学校5年生の児童165人を対象に、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回、1月～3月に実施した。1クラスあたり10人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は八潮中学校を利用した。	4,939
H30	市内小学校5年生の児童100人を対象として、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回、1月～3月に実施した。1クラスあたり10人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は八潮中学校を利用した。	4,939
H31/R1	市内小学校5年生の児童200人を対象として、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回、1月～3月に実施した。1クラスあたり10人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は八潮中学校を利用した。	5,445
R2	市内小学校5年生の児童200人を対象として、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回程度実施する。1クラスあたり10人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は市内各小学校を利用する。	5,456
R3	市内小学校5年生の児童200人を対象として、学習塾講師による国語・算数の学習指導を年間8回程度実施する。1クラスあたり10人程度の習熟度別クラスを編成し、会場は市内各小学校を利用する。	5,456

事業の評価													
① R 1 年度の活動の実施状況の評価													
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった							
理由		学習塾との連携事業を実施することができた。100名が参加し、一人ひとりにきめ細やかな指導につなげることができた。参加した児童や保護者からは、学習に対する意欲が高まったと評価が高かった。											
② R 1 年度のK P I 達成度													
		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		●		C:達成できなかった(80%未満)					
理由		学習塾との連携事業で、家庭学習への意欲を高め、つまづきの確認を行うことができたが、対象学年がひとと学年のみであり、K P I 数値に対しては、達成できなかった。											
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題		学習塾との連携については、平成 2 8 年度からの実施となる。平成 3 1 年度の全国学力・学習状況調査における全国平均との差は、平成 2 7 年度からほぼ横ばいであり、引き続き課題である。事業の実施規模や実施時期、対象学年等について、今後も引き続き検討していく必要がある。											
対応		事業実施の成果と課題を検証し、実施規模や実施時期、実施回数、対象学年、クラス編成、学習内容等を必要に応じて工夫改善をする。事業実施とともに、学校における日々の授業についても見直し、教師の授業力向上、魅力ある授業づくりを図るための指導・助言を行う。											
方向性				:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
		●		:見直して継続				:他事業と統合して継続					
		↳		重点化(拡充)		■		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
全国学力学習状況調査平均正答率(全国平均との差)	ポイント	-5	計画	-5	-4	-3	-2	-1	±0
			実績	小-4.0 中-6.4	小-4.6 中-6.6	小-1.4 中-6.1	小-3.1 中-5.1	小-1.7 中-6.3	1



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	11 小中一貫教育推進事業			部	学校教育部		課	小中一貫教育推進室		
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～							
	大施策(節)	2	次代を担う人づくり（幼児教育・学校教育）							
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標						
	基本的方向	2	教育の充実による子どもが「生きる力」を身につけられる環境の実現	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	①	きめ細やかな学習指導による学力の向上	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	－		
	事業内容		・小中学校間の垣根を越え、基礎基本の定着や自ら学ぶ力の育成などの「学力の向上」を図るため、学力に関する課題を共有し、その解決に向け、9年間を見通して計画的かつ継続的な取り組みを行う小中一貫教育を推進する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	14.5		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続するとともに、「八潮Basic I・II」の配付、「生活・学習ガイド」の配付、小学校3校・中学校1校に学力向上指導員を配置し、9年間を見通したきめ細やかな指導を行った。また、教員の授業力向上のために、秋田県小坂町への派遣研修を行った。大原中学校ブロックにおいて研究発表会を開催した。		9, 807
H28	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続するとともに、「八潮Basic I・II」の配付、「生活・学習ガイド」の配付、小学校4校に学力向上指導員を配置し、9年間を見通したきめ細やかな指導を行った。また、教員の授業力向上のために、秋田県小坂町への派遣研修を行った。全校で「八潮スタンダード」を試行的に活用した。八幡中学校ブロックにおいて研究発表会を開催した。		9, 823
H29	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続するとともに、「八潮Basic I・II」の配付、「生活・学習ガイド」の配付を継続する。また、教員の授業力向上のために、秋田県小坂町への派遣研修も継続する。「八潮スタンダード」を全面实施とし、児童生徒の一層の学力向上を図った。八幡中学校ブロックにおいて研究発表会を開催した。		6, 391
H30	全校を対象とした小中一貫教育の第四次研究指定を行う。「八潮スタンダード」を活用した授業実践の徹底を図った。また「八潮Basic I・II」の配付、「生活・学習ガイド」の配付を終了し、データ管理とした。		2, 826
H31/R1	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続した。また、「八潮スタンダード」を活用した授業実践の徹底を図った。市内の八潮中学校ブロックにおいて研究発表会を開催した。		3, 324
R2	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続する。市内の潮止中学校ブロックにおいて研究発表会を開催する。これまで11月に実施していた教育の日発表会と2月に実施していた小中一貫教育合同報告会を1つにし、実施する。		3, 308
R3	全小中学校を対象にした小中一貫教育の研究指定を継続する。八潮市教職員派遣研修に参加した教員を生かし、「八潮スタンダード」を活用した授業改善の更なる推進を図る。市内の大原中学校ブロックにおいて研究発表会を開催する。		3, 308

事業の評価				
① R1年度の活動の実施状況の評価				
	● A:概ねできた(80%以上)	B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった	
理由	八潮スタンダードを活用し、教職員一人ひとりの授業に対する意識の向上と、授業改善が図られた。また、秋田県小坂町への派遣研修を継続するとともに、令和元年度は、小坂町の指導主事による講演を実施し授業改善を推進することができた。また、綾瀬市の派遣研修の受け入れ（4日間）を行い、八潮の教育を周知することができた。八潮中学校ブロックで研究発表会を開催し、参加者より高い評価を受けた。			
② R1年度のKPI達成度				
	A:達成した(100%)	B:概ね達成できた(80%以上)	● C:達成できなかった(80%未満)	
理由	目標値を達成することはできなかったものの、小学校では、着実に全国平均との差を縮めることができています。しかしながら、中学校では、授業改善が十分に進んでいるとは言えず課題が残る。			
③ 成果向上のための課題と対応策				
課題	小学校に比べ、中学校の授業改善が進んでいない。小中一貫教育において大切にしている、授業での繋がりに焦点を当て、小学校での取組を中学校へ如何に繋げていくかが課題である。			
対応	「八潮スタンダード」の意義を教職員が理解した上で、授業改善を推進する。具体的には、小坂町派遣教職員や指導主事を活用した授業実践の指導を通して、教職員の指導力向上に努める。また、小中一貫教育の取組をさらに推進することで、特に中学校での授業改善を図る。			
方向性	●	:現状のまま継続		:休止・廃止
		:見直して継続		:他事業と統合して継続
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化
				その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
全国学力学習状況調査平均正答率(全国平均との差)	ポイント	-5	計画	-5	-4	-3	-2	-1	0	1
			実績	小-4.0 中-6.4	小-4.6 中-6.6	小-1.6 中-6.1	小-3.1 中-5.1	小-1.7 中-6.3		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	12 地域人材活用推進事業			部	学校教育部		課	指導課	
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～						
	大施策(節)	2	次代を担う人づくり（幼児教育・学校教育）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	2	教育の充実による子どもが「生きる力」を身につけられる環境の実現	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	多様な学習機会の提供による学習意欲の向上	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	—	
	事業内容		・児童生徒の学習意欲を高めるため、保護者、地域の方等を活用し、土曜勉強会（ジョイスタ）の質的拡充を図る。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	14.5	

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	補充的な学習を年間14回、特別授業を年間16回、入試対策的な学習教室を年間9回実施した。補充的な学習については、サマースクール、ウィンタースクールにも地域人材を活用し、児童生徒の学習支援を実施した。一人一人に応じた指導が行われた。	977
H28	補充的な学習を年間10回、特別授業を年間7回、補充的な学習(延べ33回)については、サマースクールにも地域人材を活用し、児童生徒の学習支援を実施した。一人ひとりに応じた指導が行われた。	534
H29	対象学年・実施回数・時期・会場の見直しを行い、ジョイスタが参加者一人一人のニーズに合った学習教室になるよう工夫した。補充的な学習教室8回、特別授業7回、入試対策講座8回。	1,110
H30	対象学年・実施回数・時期・会場の見直しを行い、ジョイスタが参加者一人一人のニーズに合った学習教室になるよう工夫した。補充的な学習教室8回、特別授業7回、入試対策講座8回。	1,068
H31/R1	対象学年・実施回数・時期・会場の見直しを行い、ジョイスタが参加者一人一人のニーズに合った学習教室になるよう工夫した。補充的な学習教室5回、特別授業5回、入試対策講座8回。	393
R2	対象学年・実施回数・時期・会場の見直しを行い、ジョイスタが参加者一人一人のニーズに合った学習教室になるよう工夫する。補充的な学習教室5回、特別授業5回、入試対策講座8回を実施する。	456
R3	対象学年・実施回数・時期・会場の見直しを行い、ジョイスタが参加者一人一人のニーズに合った学習教室になるよう工夫する。補充的な学習教室5回、特別授業5回、入試対策講座8回を実施する。	456

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
理由	●	A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった	
	補充学習は、児童生徒のニーズに合わせたものであり、回を重ねるごとに、学習意欲の高まりが見られた。また、特別授業では、好奇心旺盛に授業に参加していた。								
② R 1 年度の K P I 達成度									
理由	●	A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)	
	魅力ある授業を企画することで、参加した児童生徒の学習に対する意欲を高めることができた。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	学校行事との兼ね合いや、学校を会場とするため保護者の送迎等、実施日や実施場所が、保護者の要望に応じられていない。 また、参加児童生徒のニーズに合った個別の指導が適切に行われていない。								
対応	実施回数や実施時期を見直し、参加しやすい会場を再検討するとともに、対象学年を絞り、補充学習の内容を焦点化する。 また、参加児童生徒の実態把握をし、参加者のニーズに合った指導を行う。								
方向性		:現状のまま継続				:休止・廃止			:終了・完了
	●	:見直して継続				:他事業と統合して継続			
	↳	重点化(拡充)		■	手段を改善		効率・簡素化		その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
土曜勉強会参加者数 (年間)	人	100	計画	110	120	130	140	150	160	170
			実績	110	180	162	209	248		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	13 教育指導推進事業			部	学校教育部		課	指導課	
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～						
	大施策(節)	2	次代を担う人づくり（幼児教育・学校教育）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	2	教育の充実による子どもが「生きる力」を身につけられる環境の実現	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	多様な学習機会の提供による学習意欲の向上	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	—	
	事業内容		・大学と連携・協力し、様々な分野の内容を模擬体験授業や大学構内の施設見学等を通して、子どもたちの「将来の夢や希望をはぐくみ」「知的好奇心を喚起し」「学ぶ意欲の向上」を図る。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	14.5	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮こども夢大学の参加募集対象を拡大し、小学校5年生～中学校1年生としⅠ期24名が、4大学で5回、Ⅱ期32名が、5大学で6回の合計11回の体験学習を受講し、八潮こども夢大学を修了した。		1,075
H28	小学校5年生～中学校1年生に募集をし、Ⅰ期19名が、4大学で4回、Ⅱ期21名が、4大学で4回の合計8回の体験学習を受講した。		944
H29	小学校5年生～中学校1年生に募集をし、Ⅰ期30名が、4大学で4回、Ⅱ期26名が、4大学で4回の合計8回の体験学習を受講した。		1,082
H30	小学校5年生～中学校1年生に募集し、Ⅰ期24名が4大学で4回、Ⅱ期19名が4大学で4回の合計8回の体験学習を受講した。		1,016
H31/R1	小学校5年生～中学校1年生に募集し、Ⅰ期20名が3大学で3回、Ⅱ期30名が4大学で4回の合計7回の体験学習を受講した。(Ⅰ期は4回の予定だったが台風の為、1回中止となった)		841
R2	対象学年を検討し、Ⅰ期30名、Ⅱ期30名を募集する。Ⅰ期4回、Ⅱ期4回、合計8回を6大学で実施する。		1,028
R3	対象学年を検討し、Ⅰ期30名、Ⅱ期30名を募集する。Ⅰ期4回、Ⅱ期4回、合計8回を6大学で実施する。		1,028

事業の評価													
① R1年度の活動の実施状況の評価													
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった							
理由		大学と連携して様々な内容の模擬体験授業や大学構内の施設見学を行い、子どもたちの将来の夢や希望をはぐくみ、知的好奇心を喚起し、学ぶ意欲の向上を図ることができた。参加した児童生徒、保護者からは、是非次年度も参加したいなど、評価が高かった。											
① R1年度のKPI達成度													
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)							
理由		教育委員会にて校長会等を通して周知するとともに、各学校においても丁寧な周知をしてもらうことで、多くの児童生徒が参加をすることができた。											
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題		参加する学校ごとの人数に偏りがある。また、体験学習の内容が毎年同じ大学があり、複数年参加する児童生徒にとっては、同じ内容の学習を受けることになってしまう。											
対応		各学校の年間予定を考慮し、出来る限り各校の行事が入っていない日程にて設定する。また募集案内に昨年度の取組などを記載することで興味・関心を喚起させることで多くの学校から参加するようにする。体験学習の内容に関しては大学と連携して行うようにする。											
方向性		●		:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
				:見直して継続				:他事業と統合して継続					
		↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
八潮こども夢大学参加者数 (経年累積人数)	人	33	計画	60	95	130	165	200	260	320
			実績	56	96	152	195	245		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	14 家庭教育推進事業			部	教育総務部		課	社会教育課	
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～						
	大施策(節)	2	次代を担う人づくり（幼児教育・学校教育）						
総合戦略	基本目標	3	保育や教育の充実による親子が安心できる子育て環境づくり	数値目標					
	基本的方向	2	教育の充実による子どもが「生きる力」を身につけられる環境の実現	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	③	命に関する教育の推進	「子育て環境」の満足度（20～40代）	%	8.0（H25年度）	16.0	－	
	事業内容		・将来、親になるための学習として、世の中にとって自分自身が大切な存在だと思える気持ちを育み、命の大切さを伝えるいのちの授業（誕生学）を市内小中学校において実施する。	「学校教育の質」の満足度（20～40代）	%	6.2（H25年度）	12.4	－	

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を21回実施した。また、市内3校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を3回実施した。		1,441
H28	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を20回実施した。また、市内3校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を3回実施した。		1,441
H29	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を20回実施した。また、市内4校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を4回実施した。		1,475
H30	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を20回実施した。また、市内5校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を5回実施した。		1,513
H31/R1	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を19回実施した。また、市内6校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を6回実施した。		1,543
R2	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を20回実施する。また、市内5校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を5回実施する。		1,668
R3	市内全5校の中学校において、中学3年生を対象にクラス単位で「いのちの授業」を20回実施する。また、市内5校の小学校において小学6年生及び保護者を対象に「いのちのおはなし」及び「家庭で伝えるいのちと性」を5回実施する。		1,668

事業の評価												
① R 1 年度の活動の実施状況の評価												
理由	● A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった					
	中学 3 年生、小学 6 年生及び保護者を対象とした本事業を計画どおり実施できた。											
② R 1 年度の K P I 達成度												
理由	● A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)					
	令和元年度は小学校では 5 校での実施を計画していたが、日程や受け入れ態勢などの調整を図った結果、6 校で実施できた。											
③ 成果向上のための課題と対応策												
課題	学校及び家庭との連携、協力が必要な事業であり、また、子ども達の健やかな心を育み、家庭教育の充実を図るためにも、引き続き継続する必要がある。											
対応	学校及び家庭との連携、協力をさらに図り、事業の充実に努める。											
方向性	●		:現状のまま継続				:休止・廃止				:終了・完了	
			:見直して継続				:他事業と統合して継続					
	↳		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
いのちの授業(誕生学)実施回数(累計)	回	24	計画	24	48	72	96	120	145	170
			実績	24	47	71	96	121		



# 基本目標4

自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成





総合戦略 基本目標別総括評価シート(対象:R1年度実施事業)

基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成								
基本目標 の趣旨	地域の安全・安心を支える知識の普及や体制強化のための支援を行うとともに、地域における人と人とのつながりを強めることで、互いに支えあい学びあいながら安全・安心なまちづくりを進めることができるコミュニティを形成する。									
数値目標										
指標名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6 (H25年度)	計画	—	35.4	—	—	39.6	—	—
			実績	—	20.4	—	—	17.1	—	—
交通事故発生件数	件	528 (H26年)	計画	510以下	510以下	510以下	510以下	510以下	320以下	320以下
			実績	461	410	367	343	282		
刑法犯認知件数	件	1,271 (H26年)	計画	1,100以下	1,100以下	1,100以下	1,100以下	1,100以下	1,000以下	1,000以下
			実績	951	926	922	949	864		
			計画							
			実績							

事業の状況					
事務事業名	活動評価	KPI名	達成度評価	方向性	備考
1 地域防災力向上事業 【先行型事業】	A	研修会・意見交換会実施回数	A	現状のまま継続	
2 自主防災組織育成事業	A	自主防災組織結成率	A	現状のまま継続	
3 交通安全指導・教育事業	A	交通安全教室実施回数	A	現状のまま継続	
4 防犯活動普及事業	A	活動団体数	B	現状のまま継続	
5 防犯施設整備事業	A	防犯カメラ設置数	A	現状のまま継続	
6 コミュニティ意識の高揚事業	A	実施町会・自治会数	C	現状のまま継続	
7 地域リーダー養成事業	A	地域リーダー養成講座受講者数	B	現状のまま継続	





総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	1 地域防災力向上事業【先行型事業】			部	生活安全部		課	危機管理防災課	
総合計画	施策の柱(章)	3	防災・防犯・消防・救急～誰もが安全で安心して暮らせるまち～						
	大施策(節)	1	災害に強いまちづくり（防災・減災）						
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標					
	基本的方向	1	安全・安心を守る知識・組織・備えの充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	①	地域主体の防災活動実施のための支援による地域防災力の強化	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	—	
	事業内容		・地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の充実・強化や、乳幼児・高齢者・女性等の災害弱者への配慮に努める。 ・消防団を充実し、市民の防災意識を高めるとともに、地域防災力の向上と地域間の連携を促進する。	交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下	
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下	

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	災害弱者である乳幼児に対する災害用備蓄品の整備を図った。離乳食、おやつ、哺乳瓶・消毒剤、おしりふき、紙おむつ、粉ミルク、電気ポット、保温ポットを購入。粉ミルクは倉庫(伊勢野)。電気ポットは小中学校15校。離乳食等は小学校10校の避難所へ備蓄した。また、子育て親子の防災教室6回、防災知識出前講座3回実施した。消防団が災害時に活動するための装備(救助用編み上げ靴237足)及び災害時市民が活用できる資機材(簡易破壊救助器具20セット)を配備し、地域防災力の向上を図った。		5,622
H28	子育て親子の防災教室6回、防災知識出前講座5回実施。講座にあわせ意見交換を実施した。		0
H29	子育て親子の防災教室6回、防災知識出前講座7回実施。講座にあわせ意見交換を実施した。		0
H30	子育て親子の防災教室7回、防災知識出前講座3回実施。講座にあわせ意見交換を実施した。		0
H31/R1	子育て親子の防災教室7回、防災知識出前講座3回実施。講座にあわせ意見交換を実施した。		0
R2	子育て(乳幼児)親子防災教室、防災知識出前講座の実施する。		0
R3	子育て(乳幼児)親子防災教室、防災知識出前講座の実施する。		0

事業の評価					
① R 1 年度の活動の実施状況の評価					
	●	A:概ねできた(80%以上)	B:あまりできなかった(80%未満)	C:活動できなかった	
理由	児童館及び子育て支援ひろばに出向き、災害弱者である乳幼児の保護者を対象に防災教室を開催するとともに、災害から子どもを守るための対策について意見交換を行い、防災意識の醸成が図られた。				
② R 1 年度の K P I 達成度					
	●	A:達成した(100%)	B:概ね達成できた(80%以上)	C:達成できなかった(80%未満)	
理由	子育て親子防災教室7回、防災知識出前講座3回を行い市民一人ひとりの防災意識の醸成を図り、地域防災力の向上に努めたと考える。				
③ 成果向上のための課題と対応策					
課題	乳幼児の保護者間において防災意識に差がある。				
対応	子育て親子の防災教室や防災知識出前講座などを通じて、各自主防災組織が実施する防災訓練への参加を促すなど、防災意識の醸成を図る。				
方向性	●	:現状のまま継続		:休止・廃止	:終了・完了
		:見直して継続		:他事業と統合して継続	
	↳	重点化(拡充)	手段を改善	効率・簡素化	その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
研修会・意見交換会実施回数(年間)	回	1	計画	3	3	3	3	3	6	6
			実績	9	11	13	10	10		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	2 自主防災組織育成事業			部	生活安全部		課	危機管理防災課		
総合計画	施策の柱(章)	3	防災・防犯・消防・救急～誰もが安全で安心して暮らせるまち～							
	大施策(節)	1	災害に強いまちづくり（防災・減災）							
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標						
	基本的方向	1	安全・安心を守る知識・組織・備えの充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	①	地域主体の防災活動実施のための支援による地域防災力の強化	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	—		
	事業内容		・組織の高齢化による担い手不足を解消し、地域防災力の強化を図るため、自主防災組織の防災訓練の実施や、資機材整備等の支援を行うとともに、研修会や意見交換会を開催する。また、自主防災組織の取り組みを通して、市民一人ひとりの意識の醸成を図る。	交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下		
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下		

事業の実施状況 (見込み)		事業費 (千円)
H27	自主防災組織の充実・強化を図るため、各自主防災組織に対し資機材費補助金を支給し、資機材の整備を図った。また、火山災害対策として、火山灰による健康被害の軽減を図るため防じんマスクを備蓄した。 資機材購入補助：43団体、4,256,076円 備蓄品：防じんマスク19,360枚 1,986,336円 各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努めた。	6,243
H28	グリーンパーク第2八潮町会へ自主防災組織結成についての働きかけを行った。自主防災組織育成事業として、避難所開設及び運営に関する研修会等を実施。各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努めた。	270
H29	グリーンパーク第2八潮町会に自主防災組織の結成の働きかけを行い、結成に至った。(平成29年6月24日結成) 自主防災組織育成事業として、避難所運営に関する研修会等を実施。各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努めた。	97
H30	シティテラス八潮に町会自治会の結成とあわせ、自主防災組織の結成についての働きかけを行った。 自主防災組織育成事業として地区防災計画に関する研修会を実施。各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努めた。	357
H31/ R1	自主防災組織育成事業として一般財団法人消防防災科学センターとの協働により災害図上訓練DIG研修会を実施。また、地区防災計画作成研修会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努めた。	231
R2	自主防災組織育成事業として講演会又は研修会を実施する。各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努める。	449
R3	自主防災組織育成事業として講演会又は研修会を実施する。各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助の取組みの必要性について周知を図り、防災力の向上に努める。	449

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
●		A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった			
理由		各自主防災組織が実施する防災訓練に出向き、自助・共助の取組の必要性について情報発信を行い、地域防災力の向上に努めるとともに、自主防災組織との連携強化に努めた。また、自主防災組織が風水害に対し適切な対策を講じるため、地域で想定される被害や事前対策などについて考える災害図上訓練DIG研修会を実施し、地域防災力の向上を図った。							
② R 1 年度の K P I 達成度									
●		A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		C:達成できなかった(80%未満)			
理由		全町会・自治会において、自主防災組織が結成されている。							
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題		平成29年度に全町会・自治会に自主防災組織が結成されたものの、各自主防災組織の防災に対する対応に格差が生じている。							
対応		講演会、研修会等を開催し、核となる人材の育成、組織相互の連携強化を図っていく。また、今後、新規設立町会（マンション）があった場合は、自主防災組織の結成の働きかけを行う。							
方向性		● :現状のまま継続		:休止・廃止		:終了・完了			
		:見直して継続		:他事業と統合して継続					
		↳重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化		その他	

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
自主防災組織結成率	%	97.7	計画	100	100	100	100	100	100	100
			実績	98	98	100	100	100		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	3 交通安全指導・教育事業			部	生活安全部		課	交通防犯課	
総合計画	施策の柱(章)	3	防災・防犯・消防・救急～誰もが安全で安心して暮らせるまち～						
	大施策(節)	5	交通事故のない安全で安心なまちづくり（交通安全）						
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標					
	基本的方向	1	安全・安心を守る知識・組織・備えの充実	指標名		単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）
	具体的な施策	②	地域で取り組む安全で安心なまちづくり	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	－	
	事業内容	・自転車事故の発生率が高いことから、「自転車の安全な利用の促進に関する条例」の制定に合わせて、スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を中学校で実施する。		交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下	
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	子どもたちの発達段階に応じた交通安全教室や高齢者の特性を踏まえた交通安全教室を実施したが、スクアード・ストレイト教育技法を用いた中学校の交通安全教室は実施できなかった。		0
H28	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を八潮中学校と大原中学校で実施するとともに県教育局主催で八幡中学校でも実施した。		569
H29	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を八幡中学校と八潮中学校で実施した。		569
H30	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を潮止中学校と八潮中学校で実施した。		562
H31/R1	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を大原中学校と八幡中学校で実施した。		540
R2	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を八幡中学校と潮止中学校で実施する。		610
R3	スクアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を八潮中学校と大原中学校で実施する。		610

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
	●	A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった	
理由	スケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を大原中学校と八條中学校で実施したことから、実績状況は概ねできたと評価した。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
	●	A:達成した(100%)			B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)	
理由	2校の中学校でスケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を実施した。また、保育園や幼稚園、小学校の児童に対しても発達段階に応じた交通安全教室を実施しており、さらに高齢者に対しても交通安全に関する啓発活動を実施していることから、KPIは達成したと判断した。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	スケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室は、基本的に学校の校庭を利用して実施するため、学校との日程調整と併せて天候に左右されやすい側面がある。								
対応	実施予定日を複数日設けたり、実施時期を2学期まで範囲を広げて日程調整するなどの対応が考えられる。								
方向性	●	:現状のまま継続			:休止・廃止			:終了・完了	
		:見直して継続			:他事業と統合して継続				
	↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化
			その他						

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
交通安全教室実施回数 (年間:中学校)	校	1	計画	1	2	2	2	2	2	2
			実績	0	3	2	2	2		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	4 防犯活動普及事業			部	生活安全部		課	交通防犯課	
総合計画	施策の柱(章)	3	防災・防犯・消防・救急～誰もが安全で安心して暮らせるまち～						
	大施策(節)	3	犯罪のない安全で安心なまちづくり（防犯）						
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標					
	基本的方向	1	安全・安心を守る知識・組織・備えの充実	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）	
	具体的な施策	②	地域で取り組む安全で安心なまちづくり	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	－	
	事業内容		・地域主体の取り組みを促進するため、地域における防犯パトロールなどの活動を支援する。	交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下	
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下	

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めた。 また、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図った。		2,237
H28	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図った。 また、青色回転パトロール車を導入し防犯活動の充実を図った。		2,583
H29	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図った。 また、青色回転パトロール車を活用した防犯活動の充実を図った。		2,847
H30	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図った。 また、青色回転パトロール車を活用した防犯活動の充実を図った。		3,134
H31/ R1	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図った。 また、青色回転パトロール車を活用した防犯活動の充実を図った。		3,319
R2	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図る。 また、青色回転パトロール車を活用した防犯活動の充実を図る。		3,676
R3	講習会の開催や防犯グッズを貸与するなど自主防犯パトロール隊の育成、支援に努めるとともに、草加地区防犯協会を通じて地域の防犯対策の促進を図る。 また、青色回転パトロール車を活用した防犯活動の充実を図る。		3,320

事業の評価													
① R 1 年度の活動の実施状況の評価													
理由	● A:概ねできた(80%以上)			B:あまりできなかった(80%未満)			C:活動できなかった						
	自主防犯団体に対して、防犯グッズを貸与するなどして活動の支援ができた。また、青色回転灯パトロール車を活用した啓発活動を行うなど、防犯活動の充実を図ることができたことから、実施状況は概ねできたと判断した。												
② R 1 年度の K P I 達成度													
理由	A:達成した(100%)			● B:概ね達成できた(80%以上)			C:達成できなかった(80%未満)						
	刑法犯犯罪認知件数が前年を下回っており、防犯活動の成果が出てきている。しかしながら、活動団体数は、計画値に達していないことから、達成度としては概ね達成したと判断した。												
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題	自主防犯団体の他にも草加八潮地区防犯協会などの団体があり、団体構成員も重複しているため、新たな活動団体を増やすことが難しい状況である。また、構成員が高齢化しており、団体を維持していくことにも課題がある。												
対応	新たな構成員を加入させるなど、世代交代に向けた取り組みを進めていく必要がある。												
方向性	● :現状のまま継続						:休止・廃止				:終了・完了		
				:見直して継続						:他事業と統合して継続			
	↳			重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化			その他

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
活動団体数	団体	45	計画	45	46	47	48	49	49	49
			実績	45	45	44	44	44		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	5 防犯施設整備事業			部	生活安全部		課	交通防犯課 他	
総合計画	施策の柱(章)	3	防災・防犯・消防・救急～誰もが安全で安心して暮らせるまち～						
	大施策(節)	3	犯罪のない安全で安心なまちづくり (防犯)						
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標					
	基本的方向	1	安全・安心を守る知識・組織・備えの充実	指標名	単位	現状値 (H27)	目標値 (R1)	目標値 (R3)	
	具体的な施策	②	地域で取り組む安全で安心なまちづくり	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6 (H25年度)	39.6	－	
	事業内容		・犯罪の起きにくいまちづくりを推進するため、防犯カメラを設置するとともに、防犯灯の整備を促進する。	交通事故発生件数	件	528 (H26年)	510以下	320以下	
				刑法犯認知件数	件	1,271 (H26年)	1,100以下	1,000以下	

事業の実施状況(見込み)			事業費(千円)
H27	八幡小学校、中川小学校、大原小学校、大原中学校の要望を踏まえ草加警察署と協議して学校周辺の道路に防犯カメラを各校4基合計16基設置した。また、やしお駅前公園内に防犯カメラを6基設置した。(公園の防犯カメラ設置数を修正:真菰田公園を2基から3基に1基追加)町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付したことにより38基が新設された。		30,513
H28	松之木小学校、柳之宮小学校、八潮中学校、八幡中学校の要望を踏まえ草加警察署と協議して学校周辺の道路に防犯カメラを各校4基合計16基設置した。町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付したことにより103基が新設された。		33,421
H29	八條小学校、八條北小学校、八條中学校の要望を踏まえ草加警察署と協議して学校周辺の道路に防犯カメラを各校4基合計12基設置した。また、大原公園内に防犯カメラを6基設置した。町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付したことにより38基が新設された。		33,052
H30	防犯カメラを松之木公園に7基、どんぐり遊歩道に1基合計8基設置した。町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付し整備を促進した。		29,817
H31/R1	市内の既存公園内(北公園)に防犯カメラを6基設置した。町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付し整備を促進した。		34,586
R2	町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付し整備を促進する。		28,987
R3	市内の既存公園内に防犯カメラを計画的に整備する。町会等が設置管理する防犯灯に補助金を交付し整備を促進する。		31,310

事業の評価										
① R 1 年度の活動の実施状況の評価										
理由	●	A:概ねできた(80%以上)		■	B:あまりできなかった(80%未満)		□	C:活動できなかった		
	町会自治会の防犯灯が順調にLED化しており、道路環境が改善されていることや公園内の防犯カメラを計画どおりに設置したことから、実施状況としては概ねできたと評価した。									
② R 1 年度の K P I 達成度										
理由	●	A:達成した(100%)		■	B:概ね達成できた(80%以上)		□	C:達成できなかった(80%未満)		
	計画どおり公園内に防犯カメラを設置し、K P I の計画値が達成されていることや犯罪認知件数についても昨年を下回っていることから、達成したと判断した。									
③ 成果向上のための課題と対応策										
課題	町会自治会で防犯灯の設置が進んでいる反面、管理体制が整っていない状況が見受けられる。									
対応	町会自治会同士で管理体制の問題点について認識を共有し、情報交換しながら対策を検討する。									
方向性	●	:現状のまま継続			■	:休止・廃止		□	:終了・完了	
	□	:見直して継続			■	:他事業と統合して継続				
	↳	重点化(拡充)	手段を改善		効率・簡素化		その他			

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
防犯カメラ設置数	基	58	計画	74	90	102	102	102	129	135
			実績	81	97	115	123	129		

総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	6 コミュニティ意識の高揚事業			部	市民活力推進部		課	市民協働推進課		
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～							
	大施策(節)	8	ふれあいと連帯感にみちた地域社会づくり（コミュニティ）							
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標						
	基本的方向	2	顔の見える安全で安心なコミュニティの形成	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	①	地域の連携による市民のつながりの強化	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	—		
	事業内容		・子どもを中心として、地域のコミュニティ意識を醸成するため、町会・自治会等の公民館を学びや遊びの場として開放し、活用する。	交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下		
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	町会自治会館での事業の活性化を図るため、新たなコミュニティ活動に関する補助金事業を検討した。		0
H28	町会自治会館での事業の活性化を図るため、新たなコミュニティ活動に関する補助金事業を検討し新設した。		0
H29	各町会自治会から選出される、コミュニティ協議会役員へ説明し、町会自治会館で実施可能な事業を聴取した。 実施希望のあった各町会自治会に、新たなコミュニティ活動に関する補助金を交付するとともに事業を実施した。(2町会2事業実施)		161
H30	1町会・1自治会から実施希望があったが、町会・自治会内での調整や体制が整わず、実施に至らなかった。		0
H31/ R1	1町会から事業の実施希望があり、補助金を交付するとともに事業を実施した。		200
R2	町会未加入者を含めて行う町会・自治会活動への補助事業の周知に努めるとともに、事業実施に向けた支援を行う。		200
R3	町会未加入者を含めて行う町会・自治会活動への補助事業の周知に努めるとともに、事業実施に向けた支援を行う。		200

事業の評価									
① R 1 年度の活動の実施状況の評価									
● A:概ねできた(80%以上)		B:あまりできなかった(80%未満)		C:活動できなかった					
理由	1 町会から事業の実施希望があり、補助金を交付するとともに事業を実施した。								
② R 1 年度のK P I 達成度									
A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)		● C:達成できなかった(80%未満)					
理由	1 町会から事業の実施希望があり、補助金を交付するとともに事業を実施し、累計では「3 町会・自治会」の実績となったが、計画値の「10町会・自治会」を達成できなかった。								
③ 成果向上のための課題と対応策									
課題	各町会自治会の過度な負担にならないような事業提案が必要。 子どもを中心とした活動への理解や安全への配慮が必要。 町会自治会の総会資料等により、事業の継続性を確認し、地域コミュニティが醸成されているかの確認が必要。								
対応	町会自治会連合会の会議等で、過去の実施事業を紹介し、地域コミュニティの醸成を促す。								
方向性	●	:現状のまま継続			:休止・廃止			:終了・完了	
		:見直して継続			:他事業と統合して継続				
	↳		重点化(拡充)			手段を改善			効率・簡素化
			その他						

KPI名	単位	策定時現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
実施町会・自治会数 (累計)	町会 自治会	0	計画	—	—	3	6	10	10	10
			実績	0	0	2	2	3		



総合戦略 事業評価シート(対象:R1年度実施事業)

事務事業名	7 地域リーダー養成事業			部	市民活力推進部		課	市民協働推進課		
総合計画	施策の柱(章)	1	教育文化・コミュニティ～学びとつながりを大切にするまち～							
	大施策(節)	8	ふれあいと連帯感にみちた地域社会づくり（コミュニティ）							
総合戦略	基本目標	4	自助・共助・公助の充実による安全・安心なコミュニティの形成	数値目標						
	基本的方向	2	顔の見える安全で安心なコミュニティの形成	指標名	単位	現状値（H27）	目標値（R1）	目標値（R3）		
	具体的な施策	②	つながりづくりを牽引する人材の育成	町会・自治会等の地域活動への参加率	%	32.6（H25年度）	39.6	—		
	事業内容		・地域コミュニティを活性化するため、地域連携に向けた取り組みをコーディネートする地域リーダーを養成する。	交通事故発生件数	件	528（H26年）	510以下	320以下		
				刑法犯認知件数	件	1,271（H26年）	1,100以下	1,000以下		

事業の実施状況 (見込み)			事業費 (千円)
H27	八潮市コミュニティ協議会と市内NPO団体との協働により地域活動入門講座を実施。(県の優先配分事業補助金活用)		150
H28	アクティブシニアの社会参加を推進するための県助成金を活用し、市民活動支援コーディネーター養成講座を計画したが採択されなかった。やしお孤立問題研究会との協働による避難所運営模擬体験講座を希望町会で実施した。		0
H29	地域リーダー養成講座を計画した。市民大学の卒業生 (OB会) や市内NPO団体、町会自治会との協働に向けた取組みを検討した。		0
H30	地域リーダー養成講座を計画した。市民大学の卒業生 (OB会) や市内NPO団体、町会自治会との協働に向けた取組みを検討した。		0
H31/R1	NPO団体に委託し、地域で核となる人材や地域連携をコーディネートする人材を育成するための講座を開催した。		165
R2	NPO団体や民間団体等に委託し、地域で核となる人材や地域連携をコーディネートする人材を育成するための講演会や講座を開催する。		200
R3	NPO団体や民間団体等に委託し、地域で核となる人材や地域連携をコーディネートする人材を育成するための講演会や講座を開催する。		200

事業の評価													
① R 1 年度の活動の実施状況の評価													
●		A:概ねできた(80%以上)		■		B:あまりできなかった(80%未満)		■		C:活動できなかった			
理由		N P O 団体に委託し、地域で核となる人材や地域連携をコーディネートする人材を育成するための講座を開催した。											
② R 1 年度の K P I 達成度													
■		A:達成した(100%)		●		B:概ね達成できた(80%以上)		■		C:達成できなかった(80%未満)			
理由		地域リーダー養成講座を開催し、9 人の受講者があった。											
③ 成果向上のための課題と対応策													
課題		・ 地域リーダーとして活動するには、地域団体との連携が必要。 ・ 地域リーダーとしての知識をさらに養うため、次に繋がる事業の企画が必要。											
対応		地域リーダーとしての活動は、継続性を要するため、中長期的な計画を立て、定期的に活動できるような環境を整備する。											
方向性		●		:現状のまま継続		■		:休止・廃止		■		:終了・完了	
		■		:見直して継続		■		:他事業と統合して継続					
		└→		重点化(拡充)		■		手段を改善		■		効率・簡素化	

KPI名	単位	現状値		H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
地域リーダー養成講座受講者数 (累計)	人	0	計画	—	—	—	6	10	10	10
			実績	0	0	0	0	9		